

# KNOW

NEWS LETTER

NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER

2020.9  
第103号



公益財団法人  
麻薬・覚せい剤乱用防止センター  
Drug Abuse Prevention Center



競輪の補助事業

この冊子は、競輪の補助により作成しました。  
<http://hojo.keirin-autorace.or.jp>



# NEWS LETTER

## 2020.9・第103号

### C O N T E N T S

随想

- 「岐路に立つとき」  
 公益財団法人 麻薬・覚せい剤乱用防止センター 理事長 藤野 彰 ..... 1  
 かいせつ
- 薬物乱用状況のアップデート：  
 薬物使用に関する全国住民調査 2019 より  
 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター  
 精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室長 嶋根 卓也 ..... 2
- 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動・国連支援募金 令和2年度の  
 啓発活動状況～新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえて～ ..... 6
- 「『ダメ。ゼッタイ。』普及運動」における街頭キャンペーン・  
 厚生労働大臣メッセージ ..... 7  
 誌上研修「薬物乱用防止指導者のための実践講座」
- 薬物乱用防止啓発キャラバンカーによる啓発の実際  
 (公財) 麻薬・覚せい剤乱用防止センター 薬物乱用防止啓発キャラバンカー指導員 秋葉 敏幸 ..... 25
- 令和元年中の薬物情勢について ..... 28
- センターだより ..... 37
- ご寄付団体及び賛助会員 ..... 40

## 岐路に立つとき



公益財団法人

麻薬・覚せい剤乱用防止センター

理事長

藤野 彰

この夏、(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター理事長の職務を始めるにあたり、ご挨拶がわりに、長年に渡って思いを巡らせてきたことの一端を、皆様にお話ししたいと考えました。

私は一九八〇年に国連に採用され、ウィーンに赴任して国際麻薬統制委員会(INCB)事務局に勤務しました。初めに、麻薬見積もり制度、後に統計制度を担当したのでした。「麻薬に関する単一条約」に基づいて、合法的に造られた麻薬が非合法なルートへ横流しされるのを防ぐとともに、医療麻薬の国際的な需要と供給のバランスをとり、その適正使用を確保するための様々な活動に携わりました。

後年、「麻薬および向精神薬の不法取引に関する国際連合条約」が一九八八年に採択されるにあたり、前駆物質統制室(当時)初代室長として、INCB事務局次長を兼務しつつ、密造に使われる前駆・化学物質の国際規制を担当しました。

さらに五年ばかりを、国連薬物・犯罪事務所(UNODC)東アジア・太平洋地域センター代表としてバンコクへ赴任し、その間は麻薬問題に加え、国際組織犯罪・国際テロ対策も管轄に入りました。

今一度ウィーンに異動した後、国連を定年退官し、三十年ぶりに日本へ居を移してから、主に薬物対策に関わるいくつかの組織の役員を務めて、今日に至ります。

一九八〇年代半ば、「ダメ。ゼッタイ。」運動が始まった頃、国連職員として私が初めて日本へ出張する機会がありました。これがきっかけのひとつとなり、国連支援募金が始まったと、後に聞かれました。それから今日までの長い年月を、様々な立場で麻薬・

覚せい剤乱用防止センターに関与してきました。

当センターの設立については、山本章著『どうする麻薬問題「奇跡の国」と言われているが・・・』(薬事日報社)がいきさつを端的に語って、我々に原点を思い起こさせます。

ひとつ記憶しておかなければならないことがあります。かつて、薬物乱用防止の標語は、不幸にして薬物乱用を始めてしまった人たちへ向けてのものばかりでした。そこで、薬物に手を染めていない人々を対象にする標語が創られたのでした。それが、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」だったので。お母さんが子どもに、「ダメよ。そんなことをしては」と言い、子どもがそれに応えるといった、愛情のこもった親子の会話のように、と創始者たちが考えた記録が残っています。

さまざまな国で、薬物治療施設や刑務所などを訪れました。薬物使用で収容されていたのは、往々にして大半が若者でした。問いかけてみれば、どこの国でも、どの場所でも、同じ答えが返ってきました。「ドラッグがこんなに危険なものだとは知らなかった」として「友達から誘われた」のだと。

誤った知識の氾濫、合法化を許容する少数の国々の動き、そういつた情報からくる、誰でもやっているのだという思い込み、そのひとつひとつが若者たちを薬物乱用から救う妨げになっているのは周知のことでしょう。

歴史をひもとけば、不正な供給が乱用を引き起こしてきた事例には事欠きません。逆もまた真でした。娯楽目的の薬物使用を許す環境が生まれれば、組織犯罪はそこにつけ込んできたのです。だから、

薬物乱用という需要を減らすことが不可欠で、それは、ひとりひとりが自分事として関心を持つことから始まるのでしょうか。

世界のなかの日本です。世界で起こることは、日本でも起こり得ます。

麻薬は規制されているから危ないのではない。危ないから規制されているのだ。合法化の議論が現れるたびに、私はそう言ってきました。私が常に話していたのは、こういうことではありません。

泳ぐことが禁止されている湖がある(薬物乱用禁止)。そこで溺れている人を見つけたとする(乱用者がいた)。違法なことをしたとただ咎めたとところで、全く意味はない。まずなにより先に、目の前の人の命を救わなければならないではないか。しかし、ほかの人間がその湖に入ろうとするとき、それは押しとどめなければならない、と。

今、我々は岐路に立っています。

我々は皆、同じ方向を向いて進んでいるのです。ひとつの組織だけで完結することではありません。異なった役割を担うそれぞれの組織が、いわば有機的につながり合い、各自があたかもパズルの一片を埋めるようにして、手を携えて進んで行かなければならないときです。

本年六月に、私は一般社団法人「国際麻薬情報フォーラム」を設立しました。また近年、薬物問題に関連して活動を始めたいくつかの社団法人があります。そのうち「医薬品適正使用・乱用防止推進会議」(鈴木勉代表)、「日本薬物問題研究所」(西山孟夫代表)をはじめとし、その他関連する組織と語り合い、当センターを通して、正確な情報を発信していきたいと考えています。日本からアジアへ、そして世界へと。

当センター設立の原点を今一度思い起こし、また新たな時代に即した道を探り、国内外の諸機関と密接に連携して、先へ進みます。志ある皆様方のご支援・ご協力を切にお願いする次第です。

# 薬物使用に関する全国住民調査 2019 より

## 新型コロナウイルス感染症と

### 薬物乱用防止教育

2020年4月、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言を受け、全国の学校が一斉に臨時休校となりました。緊急事態宣言が解除された後は、段階的に学校が再開されつつありますが、いわゆる三密を避けるために、分散登校、時差通学、短縮授業などの対応が求められています。そして、休校中によって失われた教育機会を取り戻すべく、教育関係者の奮闘が日々続いています。本稿の読者の中には、学校で実施される薬物乱用防止教室の講師として活躍されておられる方も大勢いらっしゃると思いますが、新型コロナウイルスによる影響により、講師を予定していた薬物乱用防止教室が、延期あるいは中止になったというケースもあるでしょう。

今、私たちの生活は、新型コロナウイルスの感染予防を意識した「新しい生活様式」にアップデートしていくことが求められています。それは薬物乱用防止教室に対しても同様に求められるアップデートなのかもしれません。例えば、従来のような全校生徒を体育館に集めた集合研修ではなく、タブレット端末を活用し、双方向コミュニケーションなどを意識した新しいスタイルの予防教育を取り入れる学校もあるかもしれません。あるいは、様々な感染対策を講じた上で、従来の集合研修に近い形で実施していくことを選択する学校もあるでしょう。

いずれにせよ、国内外の薬物使用の現状や動向

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター  
精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室長

## 嶋根卓也

は、薬物乱用防止教育や防止活動に携わる人であれば、常に新しい情報を収集し、知識をアップデートしていくことが求められます。そこで本稿では、2019年度に実施された「薬物使用に関する全国住民調査」を通じて、国内の薬物使用の最新動向を解説します。薬物乱用防止教育や防止活動に携わる皆様の参考になれば幸いです。

### 「薬物使用に関する全国住民調査」とは

現在、国内ではどのような薬物が乱用されているのでしょうか。そして、果たして薬物を乱用している人は全国に何人くらいいるのでしょうか。こうした薬物使用に関する基礎統計を得ることを目的とした研究プロジェクトが「薬物使用に関する全国住民調査」です。国立精神・神経医療研究センターが主管となり、1995年にプロジェクトが開始されました。それ以降、2年おきに実施され、これまでに計13回の全国調査が実施されています。

調査の対象は、15歳から64歳までの一般住民です。とはいえ、全国すべての住民を対象に調査することは難しいため、一部の住民を選んで、調査への協力をお願いすることになります。専門的には、層化二段無作為抽出法という方法で、対象者をランダムに選びます。まず、全国の居住地を都市規模に基づき層化し、調査地点（2018年調査では250地点）を選びます。次に、各調査地点の住民基本台帳を閲覧し、そこからさらに無作為に対象者を選択していきます。こうした方法により、日本全体の縮図となるような偏りがない

対象者が選ばれます。2019年調査では7,000名が対象となり、2019年9月から11月にかけて調査を実施しました。

主な調査項目は、大麻、覚せい剤、危険ドラッグなど主要な薬物（8種類）の使用経験を調べています。薬物乱用は、これまでの使用経験（生涯経験）と、過去1年間の使用経験（過去1年経験）に分けて尋ねています。その他、薬物使用に誘われた経験や、薬物使用に対する意識や知識などについてもお尋ねしています。また違法薬物に限定せず、飲酒、喫煙、医薬品（睡眠薬や鎮痛薬）、エナジードリンク、カフェイン製剤の使用状況など、幅広く調べています。

調査の手順は次の通りです。まず、調査対象者となった方には、事前に調査のご案内が郵送されます。そして、調査員が対象者のご自宅を一軒ずつ訪問し、調査の説明と参加協力を依頼します。調査用紙と回収用の封筒を手渡し、後日、改めて調査員が記入済の調査用紙を回収していきます。封筒は対象者自らが封をしてから回収しますので、記載された内容が調査員に見られることはありません。また、答えたくない質問には答える必要がないことや、調査結果を公表しているホームページのご案内も併せて伝えていきます。

最近では、インターネットを活用した調査も増えてきましたが、私たちは調査員による丁寧なコミュニケーションが対象者の不安を和らげると同時に、結果として調査への協力が得られやすいと考えています。手間もコストもかかりますが、この訪問スタイルは1995年から一貫して同じ方



# 薬物乱用状況のアップデート：

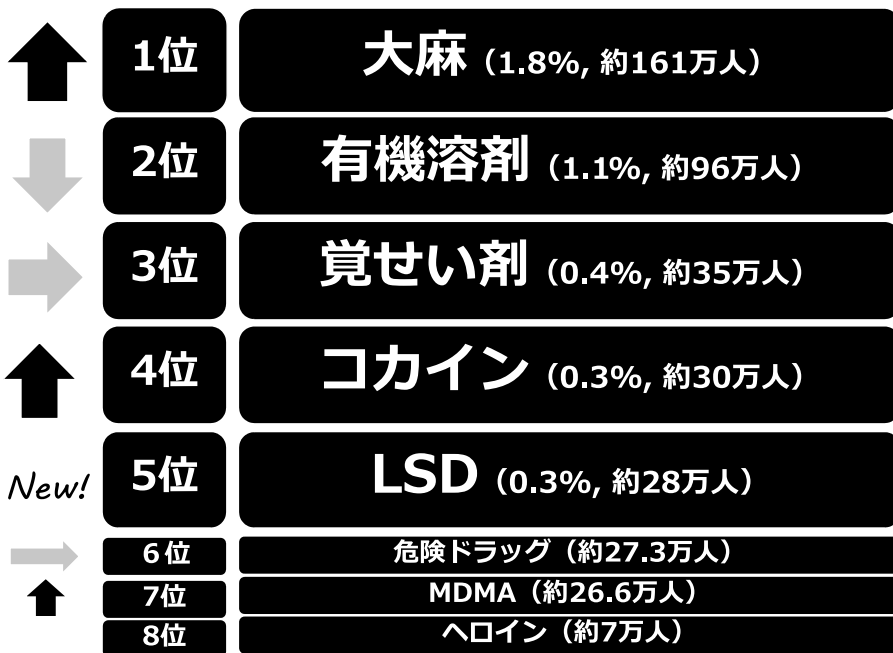


図1 一般住民における薬物使用状況 (2019年調査より)  
括弧内には各薬物の生涯経験率および生涯経験者数の推計値を表記した。

## 主な調査結果

法を採用してきました。2019年調査では、計3,961名(回収率57%)が調査にご協力いただき、このうち3,954名が有効回答となりました。

ここからは、薬物別の結果を解説します(図1、2)。生涯経験率(数)は、特に断りがない限り、調査結果を基にした推計値を表記しました。過去1年経験率(数)は、統計誤差範囲を超え、統計的に意味がある結果のみを表記しました。推計値

とは、調査結果を日本国民全体に当てはめた場合に算出される値のことです。無作為抽出によるサンプリング方法を考慮し、専用の統計ソフトを使って算出しました。

1. 大麻

大麻の乱用は増加傾向にあります。生涯経験率は、1.0%(2015年)、1.4%(2017年)、1.8%(2019年)でした。

生涯経験者数は、約95万人(2015年)、約133万人(2017年)、約161万人(2019年)と推計されました。また、過去1年経験者数は約9万人と推計されました。

2. 有機溶剤(シンナー等)

有機溶剤の乱用は減少傾向にあります。生涯経験率は、1.5%(2015年)、1.1%(2017年)、0.8%(2019年)でした。

生涯経験者数は、約138万人(2015年)、約104万人(2017年)、約96万人(2019年)と推計されました。

3. 覚せい剤

覚せい剤の乱用は横ばいで推移しています。生涯経験率は、0.5%(2015年)、0.4%(2017年)、0.4%(2019年)でした。生涯経験者数は、約50万人(2015年)、約50万人(2017年)、約35万人(2019年)と推計されました。

4. コカイン

コカインの乱用は増加傾向にあります。生涯経験率は、0.1%

(2015年)、0.3%(2017年)、0.3%(2019年)と推計されました。

5. LSD

LSDは今年度より調査対象として加えられました。生涯経験率は0.3%、生涯経験者数は約28万人、過去1年経験者数は約3万人と推計されました。

6. 危険ドラッグ

危険ドラッグの乱用は横ばいで推移しています。生涯経験率は、0.3%(2015年)、0.2%(2017年)、0.3%(2019年)でした。生涯経験者数は、約31万人(2015年)、約22万人(2017年)、約27万人(2019年)と推計されました。

7. MDMA

MDMAの乱用は増加傾向にあります。生涯経験率は、0.1%(2015年)、0.2%(2017年)、0.3%(2019年)でした。生涯経験者数は、約12万人(2015年)、約15万人(2017年)、約27万人(2019年)と推計されました。過去1年経験者数は約3万人と推計されました。

8. ヘロイン

ヘロインの乱用は横ばいで推移しています。生涯経験率は、0.1%(2015年)、0.1%(2017年)、0.1%(2019年)でした。生涯経験者数は、約7万人(2015年)、約12万人(2019年)と推計されました。

## 大麻使用者の増加について

近年、大麻取締法違反による検挙人員が増加し

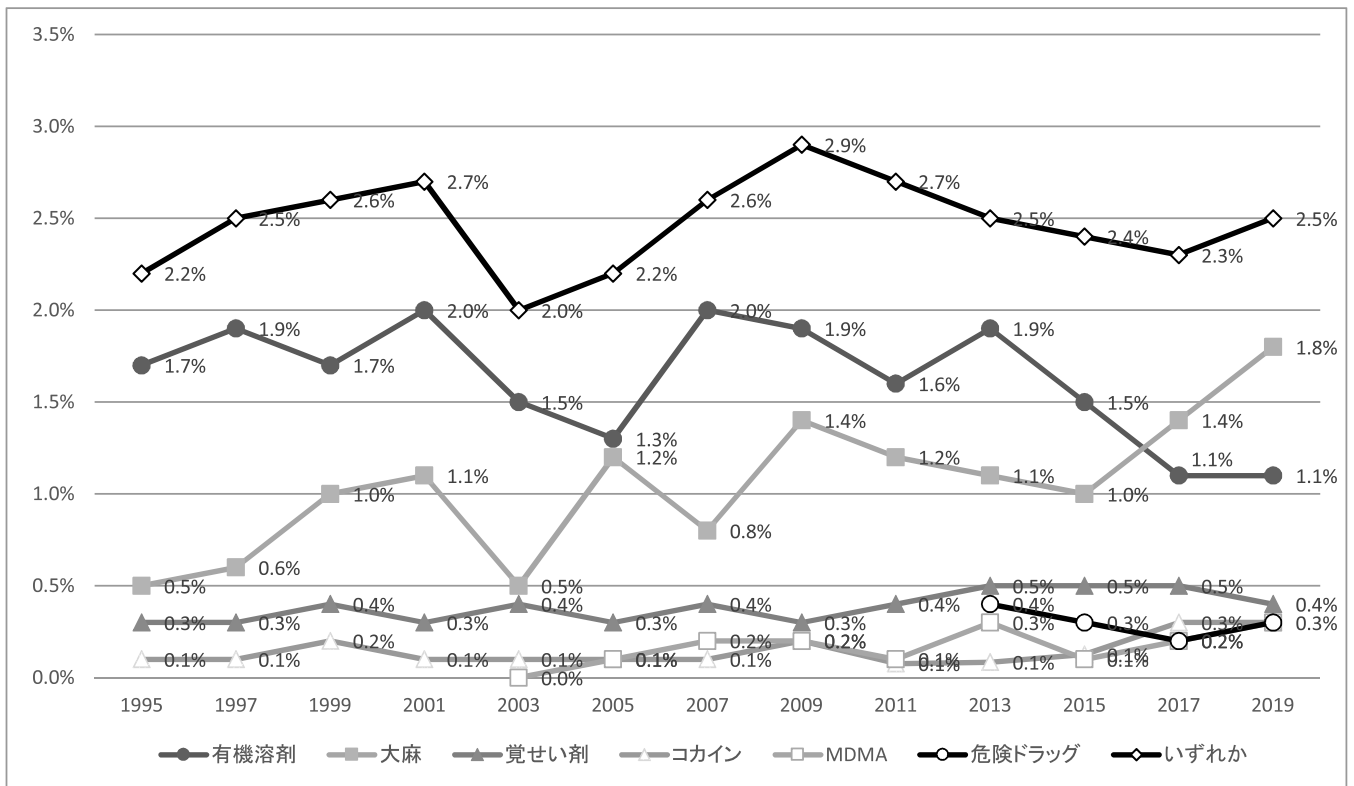


図2 一般住民（15歳～64歳）における薬物使用の生涯経験率の推移（1995年～2019年）

ています。令和元年版  
犯罪白書によれば、  
平成30年における大麻  
取締法違反の検挙人員  
は3,762名であり、  
これは統計が公表され  
ている昭和46年以降で  
最多記録となっていま  
す。今回の調査結果で  
は、大麻使用者の増加  
がひときわ目立ってお  
り、取り締まり関連の  
情報とも一致する結果  
と言えます。では、な  
ぜ大麻使用者が増加し  
ているのでしょうか。  
大麻使用者が増加する  
背景には、単一の理由  
があるわけではなく、  
複数の要因が関係して  
いると考えられます。  
ここでは次の3つの要  
因を考えました。

第一の要因は、大麻  
使用に誘われる機会が増  
えていることが影響し  
ている可能性です。本  
研究では、大麻の使用  
経験のみならず、大麻  
使用に誘われた経験に  
についても調べていま  
す。2019年調査で  
は、大麻使用に誘われ  
た経験を持つ一般住民  
は、全体の3.4%（男  
性4.4%、女性2.  
5%）でした。これを日本全国に当てはめると、  
約300万人が大麻使用に誘われた経験があるこ  
とに該当します。この大麻使用に誘われる経験を  
有する人も、増加傾向にあり、2019年調査で  
は、1995年からの20年以上におよぶモニタ  
リング期間中で最も多い人数となりました。特に  
若年層では、友人や仲間など身近な人からの誘い  
が、薬物乱用開始の契機となる場合が多いことが  
報告されていますので、注意が必要です。

第二の要因は、大麻使用に対する考えが、より  
オープン（肯定的）に変わっていることが影響し  
ている可能性です。大麻を使うことに対する考え  
を尋ねたところ、90%以上の一般住民が「使うべ  
きではない」と回答していました。しかし、「少  
しなら構わない」あるいは「個人の自由」と考え  
ている人が一定数いることがわかっています。そ  
の傾向は20代から30代の若年層において顕著に増  
加しています。インターネット上には、大麻の害  
を軽視するような情報や、大麻使用を容認するよ  
うな情報が溢れています。こうしたインターネッ  
ト・メディアが若年層の大麻使用に対する考えを  
より肯定的なものに変容させているのかもしれま  
せん。

第三の要因は、海外での使用経験の可能性です。  
近年、アメリカの一部の州（ワシントン州、コロ  
ラド州、カリフォルニア州など）、カナダにおいて、  
嗜好目的での大麻使用が認める政策を取り入れら  
れるようになりました。<sup>(3)(4)</sup>旅行や留学などでこ  
うした海外を訪れた人たちが、海外において大麻使  
用を経験したことが、大麻使用者を増加させて可  
能性が考えられます。本研究では、それぞれの薬  
物を使用した場所については尋ねていませんの  
で、大麻使用が国内での経験なのか、海外での経  
験などを明らかにすることはできません。このあ  
たりは、次回の以降の全国調査で、掘り下げてい  
く必要があると思います。

## コカインおよびMDMA使用者の増加について

今回の調査で、大麻同様に増加傾向がみられたのが、コカインおよびMDMAです。

コカインについては、過去の調査において、経験者数が少なく、いわゆる統計誤差内にとどまっていた。しかし、2015年以降、使用者が増加しており、現在では覚せい剤に次いで4番目に多い薬物となっています。麻薬・覚醒剤行政の概況によれば、平成30年におけるコカイン事犯での検挙件数・人員は、461件・217人であり、これは過去最多記録として報告されています。<sup>5)</sup> また、不正取引の価格も、覚せい剤と同様であるため、以前に比べてコカインが入手しやすい状況に変わっている可能性が考えられます。コカインを使用している人の特徴や、覚せい剤使用者との共通項や相違点などを今後、明らかにしていくことが必要となるでしょう。

一方、MDMA等合成麻薬事犯は、コカインほどの大幅な増加は報告されていませんが、平成29年から平成30年にかけて、検挙者数、押収量ともに増加していることが報告されています。<sup>5)</sup> MDMAは、代表的なクラブドラッグの一つです。東京都内のクラブ利用者を対象とした調査によれば、全体の8%にMDMA使用歴がみられ、30代の男性の使用率が高いことが報告されています。<sup>6)</sup> 検挙者数や押収量はあくまで氷山の一角として捉え、MDMAに対する警戒を継続すべきでしょう。

## 危険ドラッグ・ブームは終息したのか

危険ドラッグについては、2013年より調査項目に追加し、今回で4回目の調査となりました。2013年に約40万人と推計された生涯経験者数は、2015年に約31万人、2017年には約22万人となり、減少傾向にありましたが、今回の調

査では、生涯経験者数は約27万人と推計され、経験者数の減少は止まり、むしろ若干増加する結果となりました。一方で、危険ドラッグの有害性に関する周知率は、85・8% (2015年) から71・8% (2019年) に低下していることが明らかになりました。東京都福祉保健局による試買調査によれば、依然としてインターネットを介して新規の危険ドラッグが流通していることも報告されています。<sup>7)</sup> 危険ドラッグに関する話題がメディアで報じられる機会も減少し、それに伴い一般住民の危険ドラッグに対する関心や警戒心が低下していることが、危険ドラッグの有害性を軽視する背景にあるのかもしれない。以上を踏まえると、危険ドラッグの乱用は、ピーク時に比べれば下火になったとはいえ、依然として警戒が必要なものであることには変わりありません。

## まとめ

本稿では、国内における薬物乱用状況のマップデートを目的に、薬物使用に関する全国住民調査 (2019年) の調査結果を解説しました。最新の調査結果によれば、一般住民において、大麻、コカインおよびMDMAの使用者が増加傾向にあることが示されています。今後、薬物乱用防止教育や予防啓発を行う際には、これらの薬物乱用の広がりを意識し、乱用に伴う健康影響についても改めて確認しておくことが求められると思います。なお、全国住民調査の詳細は、私たちのホームページで研究報告書を公開していますので、ぜひ活用ください。(https://www.ncnp.go.jp/nihh/yakubutsu/report/pdf/J\_NGPS\_2019.pdf)

## 文献

(1) 嶋根卓也, 猪浦智史, 邱冬梅, 和田清・薬物使用に関する全国住民調査 (2019年). 令和元年度厚生労働科学研究費補助金医薬

品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究 (研究代表者: 嶋根 卓也)」分担研究報告書 pp19-120, 2020.

(2) 法務省法務総合研究所: 令和元年版犯罪白書, 2019.

(3) Carnevale JT et al. A practical framework for regulating for-profit recreational marijuana in US States: Lessons from Colorado and Washington. *Int J Drug Policy*. 2017; 42: 71-85.

(4) Webster P. Debate over recreational cannabis use legalization in Canada. *Lancet*. 2018; 391 (10122): 725-726.

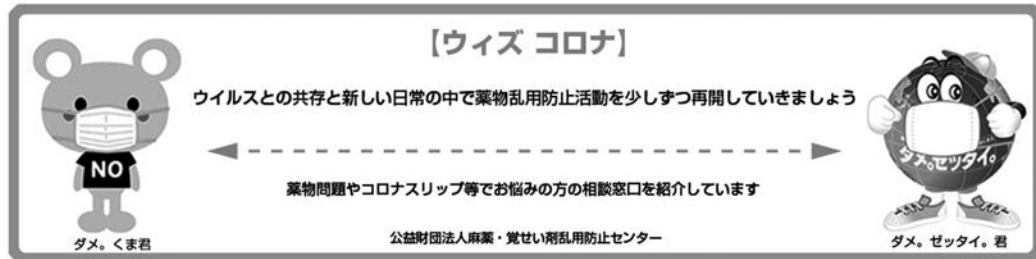
(5) 厚生労働省医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課: 麻薬・覚醒剤行政の概況, 2019.

(6) Shimane, T., Hidaka, Y., Wada, K. and Funada, M.: Ecstasy (3, 4-methylenedioxymethamphetamine) use among Japanese rave population. *Psychiatry Clin Neurosci*. 67 (1):12-19, 2013

(7) 東京都福祉保健局: 指定薬物検出物品の詳細 (2019年3月11日報道発表資料) [http://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2019/03/11/04\\_01.html](http://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2019/03/11/04_01.html)

# 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動・国連支援募金 令和2年度の啓発活動状況

～新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえて～



厚生労働省、都道府県（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センターが主催し、国際連合（薬物犯罪事務所）、警察庁など関係省庁の協賛及びボーイスカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ、ロータリークラブなどの民間団体後援のもとに「ダメ。ゼッタイ。」普及運動及びその一環としての「6・26ヤング街頭キャンペーン」を、6月27・28日を中心に約一カ月間、各都道府県で実施する予定でしたが、昨年来の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度は、地域の実情に配慮した上で実施することとなりました。

本普及運動は、新国連薬物乱用根絶宣言の支援事業の一環として、官民一体となり、国民一人一人の薬物乱用問題に対する認識を高め、併せて、国連決議による「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」の周知を図り、内外における薬物乱用防止に資するために実施されてきました。

この普及運動と並行して、（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、麻薬乱用防止活動に従事する民間団体の活動資金を国連を通じて支援するための「国連支援募金」運動を実施し、本年も全国から善意の浄財が集まりました。

また同期間中には、各種業業関係団体、理美容、クリーニング、浴場、飲食業等の各環境衛生同業組合等のご協力により、店頭でののぼり、ポスター掲出による啓発、募金運動などを行なう「地域団体キャンペーン」も地域の実情に沿った運営方式により実施されました。

以下、感染拡大防止を踏まえた都道府県ごとの啓発活動の取り組み状況をご報告いたします。

## 「『ダメ。ゼッタイ。』普及運動」における街頭キャンペーン・厚生労働大臣メッセージ

今日、覚醒剤、大麻、危険ドラッグなどの薬物の乱用が深刻な社会問題となっています。

これらの薬物は、一度でも手を出すと、自分の意思では止めることが極めて難しくなります。自らの体や心をむしばむだけでなく、家族や周りの人々の人生をも取り返しのつかないものにしてしまうため、絶対に使用してはいけません。

我が国では、近年、大麻についての検挙人員が、過去最高を更新し続け、増加の一途を辿り、昨年は、四千人を上回っています。そのうち半数以上が十代及び二十代の若年層であり、深刻な問題となっています。インターネットの普及によりSNS等では「大麻は害がない」といった誤った情報が拡散していますが、大麻も脳へ影響を及ぼすものであり、その害悪は覚醒剤などの他の薬物と何ら変わりありません。

また、覚醒剤についての押収量は、四年連続で一トンを超え、昨年は、初めて二トンを超えました。これは、大変憂慮すべき事態です。さらに、危険ドラッグを含む違法な薬物は、インターネットを利用した密売が横行しており、脅威となっています。

覚醒剤、大麻、危険ドラッグなどから自分自身を守るためには、どんな人から誘われても、きっぱりと断る勇気を持つことが何よりも大切です。皆様一人ひとりが、「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、薬物乱用防止の輪を大きく広げていただき、ともに薬物乱用を許さない社会を作っていきましょう。

令和二年六月二十七日

厚生労働大臣 加藤勝信



(協力/読売新聞東京本社 事業局スポーツ事業部)



## 北海道

月 日	6月20日～7月19日（※地区により、新型コロナウイルス感染症の影響により時期を変更して実施。）
活動主体	北海道、北海道警察本部、北海道薬物乱用防止指導員連合協議会、北海道薬物乱用防止指導員各地区協議会（二十地区）、ヤングボランティア（ポースカウト、ガールスカウト、中学生、高校生、大学生等）、薬業関係団体、保護司会、青少年育成団体、関係行政機関等
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の影響により、中止や時期を変更しての実施を検討。 ②地域団体キャンペーン 道内の薬局、薬店、道の駅、温泉、スーパー等の協力を得て、麻薬・覚せい剤等の乱用防止に関する啓発資材等の配布、ポスターの掲示等を実施。

## 青森県

開催場所	（青森市）秋に延期 （弘前市）秋に延期 （八戸市）秋に延期（9月27日予定）
活動主体	主催 青森県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 協力団体
活動状況	6・26ヤング街頭キャンペーン 例年、青森市、弘前市、八戸市の3か所にて6・26ヤング街頭キャンペーンとして、通行人等に対し

啓発用パンフレット、バンソウコウ等の配布をするとともに薬物乱用防止の呼び掛けを行い、併せて「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金活動を行っているところであるが、令和2年度については、新型コロナウイルス流行の状況を踏まえ、秋に延期することとした。

## 岩手県

活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、街頭キャンペーン未実施。 ②地域団体キャンペーン 県薬剤師会、県生活衛生同業組合等の協力店舗においてポスター掲示、薬物乱用防止の呼び掛けを行った。
------	--

## 宮城県

活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により県主催のキャンペーンは中止。 各地区で行われる「ダメ。ゼッタイ。」普及運動については、各地区の実情に合わせて、実施するよう通知を行った。
------	---

## 秋田県

月 日	令和2年6月20日～7月19日
開催場所	北秋田市ふれあいプラザ コムコム （パネル展示）
活動主体	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 秋田県実行委員会

- ・大館鹿角地域実行委員会
- ・本荘由利地域実行委員会
- ・鷹巣阿仁地域実行委員会
- ・大曲仙北地域実行委員会
- ・能代山本地域実行委員会
- ・横手平鹿地域実行委員会
- ・秋田周辺地域実行委員会
- ・湯沢雄勝地域実行委員会

活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、イベントは中止 鷹巣阿仁地域実行委員会が主体でパネル展を開催 ②地域団体キャンペーン 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動地域実行委員会並びに薬物乱用防止指導員等の協力により、薬局や病院等にてポスターの掲示、リーフレットの配布、募金箱の設置、各団体の会合等での呼びかけ（趣旨の周知、募金への協力）を行った。
------	---



秋田県



# 山形県

月 日

6月20日～7月19日

## 活動主体

山形県、一般社団法人山形県医師会、一般社団法人山形県歯科医師会、公益社団法人山形県獣医師会、一般社団法人山形県薬剤師会、一般社団法人山形県医薬品登録販売者協会、山形県薬事工業協会、山形県医薬品卸業協会、山形県医薬品配置協議会、山形県医療機器販売業協会、公益社団法人山形県防犯協会連合会、山形県覚醒剤等追放協議会、山形県婦人連盟、山形県青少年補導連絡協議会、山形県少年補導員連絡会、山形県保護司会連合会、山形県理容生活衛生同業組合、山形県美容業生活衛生同業組合、山形県クリーニング業生活衛生同業組合、山形県麺類飲食生活衛生同業組合、山形県旅館ホテル生活衛生同業組合、山形県料理飲食業生活衛生同業組合、山形県鮪商生活衛生同業組合、山形県喫茶飲食生活衛生同業組合、山形県飲食業生活衛生同業組合、山形県社交飲食業生活衛生同業組合、七日町商店街振興組合、山形県遊技業協同組合、一般財団法人山形県交通安全協会、一般社団法人山形県自家用自動車協会、一般社団法人山形県安全運転管理者協会、一般社団法人山形県ハイヤー協会、一般社団法人山形県バス協会、公益社団法人山形県トラック協会、公益社団法人山形県宅地建物取引業協会、公益社団法人全日本不動産協会山形県本部、ライオンズクラブ国際協会3321E地区、山形県

民生委員児童委員協議会、一般社団法人山形県自動車整備振興会、山形県青少年育成県民会議

① 地域団体キャンペーン  
39協賛団体にポスター、リーフレット、募金箱を送付し、各団体構成員への薬物乱用防止の啓発及び国連支援募金活動への協力を依頼した。

② その他  
県・各公所でポスター、募金箱を設置し、薬物乱用防止の啓発及び国連支援募金活動への協力を依頼した。

新聞に掲載される県政広報欄や県政ラジオ広報での薬物乱用防止の呼びかけを行った。  
県ホームページにポスター、厚生労働大臣挨拶を掲載し「ダメ・ゼッタイ」普及運動について広く県民に広報した。

FM山形ラジオ番組で、県内の薬物乱用問題の実態や「ダメ・ゼッタイ」普及運動の活動内容について紹介し、県民に薬物乱用防止を強く呼びかけた。

# 福島県

月 日

6月20日～7月19日

## 開催場所

福島市、伊達市、二本松市、郡山市、田村市、須賀川市、石川町、平田村、白河市、棚倉町、会津若松市、喜多方市、会津坂下町、南会津町、相馬市、いわき市  
計16市町村18ヶ所

## 活動主体

県、県薬物乱用対策推進本部、「ダメ・ゼッタイ」県普及運動実行委員会、各地区薬物乱用防止指導員協議会(県内16地区)、関係団体

## 活動状況

① 地域団体キャンペーン

関係行政機関、企業、薬局、中学校、高校、専門学校、大学、警察署等の協力を得て、ポスター掲示やパンフレット配布を行うとともに、国連支援募金活動を通じて、一般住民等への啓蒙活動を行った。若年層への啓発活動においては、登校時の高校生を中心に、パンフレット等の啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。

② その他

41協賛団体に対して、各団体構成員への薬物乱用防止の啓発及び国連支援募金活動への協力を依頼した。



福島県

# 茨城県

月 日

6月20日～7月19日

## 開催場所

① 6・26ヤング街頭キャンペーン…新型コロナウイルス感染症拡大のため中



茨城県

<b>活動主体</b>	茨城県、茨城県薬物乱用対策推進本部、茨城県薬物乱用防止指導員協議会、関係団体、関係機関
	止
<b>活動状況</b>	<p>① 6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症拡大のため中止とした。</p> <p>② 地域団体キャンペーン 県内の薬局等の薬事関係施設、理・美容所、旅館等の生活衛生営業施設、食品関係施設、病院・診療所、大学・専門学校等約3,000の店舗・施設の協力を得て、ポスターの掲示やリーフレットの配布を実施した。併せて店頭等に募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。</p> <p>③ その他 夏季茨城県高等学校野球大会会場（6球場）において横断幕の掲示を行い、選手、来場者、ケーブルテレビ視聴者に対する啓発を行った。</p>

また、県庁2階広報コーナーにおいて、薬物乱用防止啓発パネル及び薬物標本の展示を行った。

## 栃木県

<b>月 日</b>	6月20日～7月19日
<b>開催場所</b>	県内一円
<b>活動主体</b>	栃木県 宇都宮市
<b>参加人員</b>	約150名

<b>活動状況</b>	<p>① 6・26ヤング街頭キャンペーン 本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大が見られる状況を鑑み、街頭キャンペーンは実施しないこととした。</p> <p>② 地域団体キャンペーン 県内の各市町、警察署、生活営業施設、食品関係施設等の協力を得て啓発ポスターの掲示やリーフレットの配布を行った。また、来庁者に対してリーフレットや啓発資材を配布したり、国連支援募金への協力を呼びかけた。</p> <p>③ その他 県ホームページや県公式「Twitter」、地元テレビの県政報道企画を活用し、薬物乱用防止を呼びかけた。また、県庁の企画展示コーナーに薬物乱用防止に関する展示をしたり、県内の小学5・6年生、中学生及び高校生に対して啓発リーフレットを配布するなど、薬物に関する正しい知識の普及啓発に努めた。</p>
-------------	---

## 群馬県

<b>月 日</b>	6月20日～7月19日
<b>開催場所</b>	例年、各地区の「ダメ。ゼッタイ。」地区推進連絡会議が中心となり、12地区

区18カ所において、6・26ヤング街頭キャンペーンを実施していたが、本年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため街頭キャンペーンは中止し、地域団体キャンペーンのみ実施した。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の発生状況によるが、別の機会での街頭キャンペーン実施について検討を行う。

## 活動主体

群馬県、前橋市、高崎市、群馬県薬物乱用対策推進本部、群馬県「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用防止推進連絡会議、「ダメ。ゼッタイ。」各地区推進連絡会議（12地区）、ヤングボランティア（ポイスカウト、ガールスカウト、高校生等）、関係団体（薬剤師会、保護司会、民生委員児童委員協議会、少年補導員連絡会、医薬品配置協会、ライオンズクラブ、更生保護女性会、食品衛生協会、ロータリークラブ等）

## 活動状況

① 地域団体キャンペーンとして、薬局や飲食店、理容店、フリーニング店、旅館等の協力を得て、ポスター掲示や店頭にリーフレットやポケットティッシュの設置、募金箱を設置してもらい国連支援募金活動への協力を呼びかけた。

② 保健所等の関係施設の敷地内に横断幕やのぼり旗を設置し、地域住民に周知した。

③ 市町村の広報誌やラジオ、インターネット等を活用し、広く住民に広報した。

## 埼玉県

<b>月 日</b>	6月27日（土）
<b>開催場所</b>	JR北朝霞駅及び東武東上線朝霞台駅



埼玉県

<b>活動主体</b> 埼玉県、埼玉県薬物乱用防止指導員連合協議会、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動埼玉県実行委員会、埼玉県警察本部、埼玉県教育委員会、各市町村、(一社)埼玉県薬剤師会、ライオンズクラブ330-C地区、日本ボーイスカウト埼玉県連盟など	<b>参加人員</b> 17人
	<b>活動状況</b> ① 6・26ヤング街頭キャンペーン 駅頭において、のぼり等を掲示するとともに、リーフレット、うちわ及びウェットティッシュ等の啓発資材を配布した。 ② 地域団体キャンペーン 関係団体の店頭等にポスター掲示及び募金箱設置を行い、国連支援募金の呼びかけを行った。 ③ その他 県ホームページや市町村広報紙等の様々なメディアを活用し、薬物乱用防止の広報を実施した。また、県内の学校や関係団体・企業へリーフレットを配布し、国連支援募金の呼びかけを行った。

千葉県



千葉県

<b>開催場所</b> 行政機関(県庁、保健所)等	<b>月 日</b> 6月20日～7月19日
<b>活動主体</b> 千葉県、千葉県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、千葉県薬物乱用防止指導員協議会	<b>活動状況</b> ① 6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、街頭キャンペーンは中止とした。 ② 地域団体キャンペーン 医師会、歯科医師会、薬剤師会、業業会、理容生生活衛生同業組合、美容業生活衛生同業組合、クリーニング生活衛生同業組合等の協力を得て、関係施設にポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置し、薬物乱用防止を訴えた。 ③ 広報啓発活動 県ホームページ、県広報紙、テレビ、ラジオCM等の媒体を通じて薬物乱用防止を訴えた。

東京都

<b>月 日</b> 6月20日から7月19日まで
------------------------------



東京都

<b>開催場所</b> 行政機関(都保健所 他)	<b>活動主体</b> 東京都、東京都薬物乱用対策推進本部、東京都薬物乱用防止推進協議会、関係行政機関、関係民間団体 等
<b>活動状況</b> ① 6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、今年度については「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」都民の集いの開催を中止とした。 ② 地域団体キャンペーン 関係行政機関及び関係民間団体等にリーフレット及びポスターの配布を行うとともに、協力団体の店頭でのポスター掲示及び国連支援募金箱の設置等の協力要請を行った。 また、関係行政機関において薬物乱用防止啓発ブースを設置し、来所者に対し薬物乱用防止を訴えた。 ③ その他 都ホームページや都広報誌等の様々なメディアを活用し、薬物乱用防止に関する内容を取り上げた。また、インターネット動画広告等で啓発動画を放映し、主に若年層に対して薬物乱用防止を訴えた。	

## 神奈川県

月 日	6月20日～7月19日(「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実施期間)
開催場所	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年7月に横浜駅等で実施している街頭キャンペーンは中止
活動主体	県薬剤師会、神奈川県、薬物クリーンかながわ推進会議(薬物乱用防止指導員協議会、麻薬等薬物相談員会、保護司会連合会、横浜税関、県内関係機関等182団体)、市町村、教育委員会、県警察本部等
参加人員	各キャンペーン中止のため、集計していない
活動状況	薬物クリーンかながわ推進会議が中心となり、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の実施期間中に県内各地において、各関係機関・団体及び市町村にポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。 その他、県内大学において学生向けの情報提供を目的に開設しているサイトを活用し、県内の大学生に向けて薬物乱用防止を呼び掛けた。

## 新潟県

活動主体	新潟県、新潟県薬物乱用対策推進本部(新潟県教育委員会、新潟県警察本部、新潟県地方検察庁、新潟海上保安部、新潟保護観察所、新潟税関支署、新潟労働局、新潟少年鑑別所、東京入国管理局新潟出張所、一般社団法人新潟県医師会、新潟県精神科病院協会、公益社
------	---

活動主体	団法人新潟県薬剤師会、新潟県市長会、新潟県町村会、新潟県薬物乱用防止指導員、一般社団法人新潟県歯科医師会、新潟県青少年健全育成県民会議、社会福祉法人新潟県社会福祉協議会、日本ボーイスカウト新潟連盟、一般社団法人ガールスカウト新潟連盟、国際ロータリー第2560地区ガバナー事務所、ライオンズクラブ国際協会333-A地区、公益社団法人新潟県防犯協会、公益社団法人新潟県食品衛生協会、公益財団法人新潟県生活衛生営業指導センター、一般社団法人新潟県医薬品登録販売者協会、新潟県医薬品配置協議会、日本医薬品卸勤務薬剤師会、新潟県支部、新潟県高等学校野球連盟、新潟県ラグビーフットボール協会
活動状況	①新潟県警察ノードラッグ大使による啓発キャンペーン 新潟県警察ノードラッグ大使のNeggicc(アイドルユニット)、TSUNEIさん(シンガーソングライター)、稲垣啓太さん(ラグビー選手)からいただいたメッセージを県公式YouTubeチャンネル及びTwitterで公開し、薬物乱用防止を呼びかけた。 ※「6・26ヤング街頭キャンペーン」の代替となる普及啓発活動 ②その他 県庁構内等で薬物乱用防止啓発の横断幕ポスターを掲出するとともに、庁舎内の生協売店や金融機関等に国連支援に係る募金箱を設置し、来庁者等に対して啓発を行い、募金の協力を呼びかけた。

## 富山県

活動主体	富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会(41団体)
活動状況	富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会参加団体の協力を得て、ポスターの掲示や啓発資材の配布を行った。また、国連支援募金運動への協力を呼び掛けた。県のホームページにおいて、本運動の周知を行った。

## 石川県

活動主体	県、警察本部、金沢市保健所、薬剤師会、保護司会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会、ライオンズクラブ、更生保護女性連盟、BS連盟、ボーイスカウト、ガールスカウト等
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 中止 ②地域団体キャンペーン 6月20日から7月19日までの期間、薬剤師会等の地域団体の協力を得て、薬局や生活衛生営業施設等にポスターを掲示して啓発を図るとともに、募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼び掛けた。

## 福井県

活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 例年ショッピングセンター等で実施していた街頭キャンペーンは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を鑑み、中止とした。
------	---

②地域団体キャンペーン  
病院・診療所・歯科診療所、薬局・薬店等の各関係機関・団体および市町にポスターの掲示および募金箱の設置を依頼し、キャンペーンの周知と国連支援募金への呼びかけを行った。

③その他  
6月22日から1週間、福井県庁1階ホールで薬物乱用防止啓発パネル展を実施した。また、キャンペーン期間に限らず、各学校の要望に応じて、薬物乱用防止啓発パネル展を実施している。



福井県

### 山梨県

月 日	6月20日から7月19日
開催場所	県内各関係団体
活動主体	県、県薬物乱用対策推進本部、県・各地区薬物乱用防止指導員協議会、県警察本部、警察署、市町村、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、医師会、歯科医師会、薬剤師会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会、クリーニング生活衛生同業組合、学校、ポ

参加人員	イスカウト、ガールスカウト等 約750人
活動状況	地域団体キャンペーン 運動期間中、各関係機関・団体や市町村役場等にリーフレットその他啓発資材等の配布を行うとともに、ポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。

### 長野県

活動主体	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動長野県実行委員会参画4機関・23団体 県、県薬物乱用対策推進協議会、地区薬物乱用対策推進協議会、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、県医薬品卸協同組合、県製薬協会、県医薬品登録販売者協会、県医薬品配置協議会、県保護司会連合会、県子ども会育成連合会、ライオンズクラブ国際協会334-E地区、国際ロータリー第2600地区、県ホテル旅館生活衛生同業組合、県美容容業生活衛生同業組合、県クリーニング生活衛生同業組合、県理容生活衛生同業組合、県公衆浴場業生活衛生同業組合、日本ボーイスカウト長野県連盟、ガールスカウト長野県連盟
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン(中止) 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から今年度の街頭キャンペーンは中止した。 ②地域団体キャンペーン 病院・診療所・歯科診療所、薬局・薬店、理・美容所、クリーニング店、ホテル・旅館、公衆浴場、

自動車教習所等約9,000施設において、ポスターの掲示と一声運動を実施した。  
また、薬局・薬店約1,100店舗の店頭に募金箱を設置し、国連支援募金に協力した。

### 岐阜県

活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 中止 ②地域団体キャンペーン 岐阜県薬物乱用対策推進本部を構成する各団体、県内各高等学校・大学等に対して、ポスターの掲示や募金箱の設置等の協力依頼を行った。
------	--

### 静岡県

月 日	①6月20日～7月19日 ②6月1日～6月28日 ③6月22日 ④7月5日 ⑤7月6日 ⑥7月8日
開催場所	①静岡県熱海総合庁舎、静岡県中遠総合庁舎、浜松市保健所 ②NHK、SBS地上デジタルテレビデータ放送④岳麓新聞、日刊静岡 ③⑤コミュニティFM(県内12局) ⑥SBSラジオ(A.M局)、K・Mix(F.M局)
活動主体	静岡県、静岡県薬物乱用対策推進本部、静岡県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、静岡県薬物乱用防止指導員協議会、各市町、一般社団法人日本ボーイスカウト静岡県連盟、一般社団法人ガールスカウト静岡県連盟、ライオンズクラブ国際協会334-C地区、国際ロータリー第2620地区、国際ソロプチミスト静岡、一般社団法人

人静岡県医師会、一般社団法人静岡県歯科医師会、公益社団法人静岡県薬剤師会、静岡県医薬品登録販売者協会、公益社団法人静岡病院協会、静岡県配置医薬品協議会、静岡県医薬品卸業協会、静岡県製薬協会、静岡県理容生活衛生同業組合、静岡県美容業生活衛生同業組合、静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合、一般社団法人静岡県食品衛生協会、静岡県保護司会連合会、静岡県更生保護女性連盟、静岡県カラオケBOX協会、日本塗料商業組合静岡県支部

### 活動状況

○6・26ヤング街頭キャンペーン

- ・期間中、県総合庁舎、政令市保健所において、薬物乱用防止啓発パネルや薬物標本の展示によるパネル展を実施し、啓発用リーフレットやポケットティッシュを配架し、広く県民に薬物乱用防止を訴えた。
- ・期間中、NHK、SBSの地上デジタルテレビのデータ放送にて、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の広報スポットを放送した。
- ・県民だより6月号に「ダメ。ゼッタイ。」普及運動及び薬物乱用防止に関する記事を掲載した。
- ・7月5日、岳麓新聞及び日刊静岡に「ダメ。ゼッタイ。」普及運動及び薬物乱用防止に関する記事を掲載した。
- ・6月22日、7月6日に県内12局のコミュニティFMにて「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の広報スポットを放送し、広く県民に薬物乱用防止を訴えた。
- ・7月8日、SBSラジオ(AM局)、K・Mix(FM局)にて、ラジオ広報番組「県庁ニュース ふじのくに」に出演し、「ダメ。ゼッタイ。」普及運

動の広報を行い、広く県民に薬物乱用防止を訴えた。  
○地域団体キャンペーン  
各市町及び関係団体等の協力を得て、県内各所に啓発用ポスターを掲示するとともに、募金箱を設置して国連支援募金への呼び掛けを行った。



静岡県

### 愛知県

月 日	普及運動期間中 (6月20日(土) から7月19日(日)まで)
開催場所	愛知県内各地
活動主体	愛知県、愛知県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、15地区薬物乱用防止推進協議会(薬物乱用防止指導員、ライオンズクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウト、保護司会、更生保護女性連盟、各市町村、警察等)

### 活動状況

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、県主体の街頭活動は中止し、保健所等での募金箱の設置や県内のスーパー及び県内関係団体事務所等で麻

薬・覚醒剤等の乱用防止に関するポスターの掲示を行った。その他、知事の会見で用いるバックボードの作成や名古屋競馬場の電光掲示板標示を行い、薬物乱用防止の周知を図った。



愛知県



三重県

### 三重県

月 日  
6月20日から7月19日



<b>開催場所</b>	東員町社会福祉協議会、三重県桑名保健所、三重県四日市庁舎、四日市市総合会館、近鉄四日市駅北口ふれあいモール及びシャンデリア広場、三重県鈴鹿庁舎正面玄関ロビー内、三重県津庁舎内エレベーターホール、三重県松阪庁舎、松阪市健康センターはるる、大台町役場、多気町役場、明和町役場、パロミタス伊勢、イオン阿児店、三重県伊賀庁舎1階ロビー、三重県尾鷲庁舎、三重県熊野庁舎1階ロビー計17ヶ所
	<b>活動主体</b>
<b>参加人員</b>	主催 三重県薬物乱用対策推進本部、三重県、四日市市、薬物クリーンみえ推進協議会 101人
<b>活動状況</b>	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内の主要駅、ショッピングセンターなどで薬物乱用防止指導員や薬物乱用防止指導啓発団体を中心に、三重県薬物乱用対策推進本部や薬物クリーンみえ推進協議会を構成する団体等が官民一体となって、街頭キャンペーンを行った。 ポスターの掲示、薬物標本を展示し、横断幕やのぼり旗を掲揚するとともに、内閣府特命担当大臣のメッセージを読み上げ、高校生や県民にリーフレット、ポケットティッシュ、うちわ等の啓発資材を配布しながら、薬物乱用防止を訴えた。 他に、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動と併せて、街頭募金を行い、国連支援募金への協力を呼びかけた。 ②地域団体キャンペーン 三重県薬物乱用対策推進本部や薬物クリーンみえ推進協議会を構成する団体等の協力を得て、ポスターの掲示、啓発資材の配布や一声運動の実施を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。

<b>滋賀県</b>	なお、地域によっては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を考慮し、例年通りの街頭啓発は実施せず、県庁舎等において、ポスターの掲示、啓発資材の配布等により、来庁者への薬物乱用防止を訴えた。
	<b>活動状況</b>
<b>活動状況</b>	①6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の影響により中止 ②地域団体キャンペーン 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動啓発期間には、地域団体キャンペーンとして、病院、診療所、歯科診療所、薬局、薬店、ライオンズクラブ会員の施設等、地域団体の協力を得てポスターの掲示と一声運動を実施し、併せて店頭等に募金箱を設置して国連支援募金活動に協力した。
<b>京都府</b>	<b>活動状況</b>
	①6・26ヤング街頭キャンペーン 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、6・26ヤング街頭キャンペーンは中止した。 その代わりとして、府内各大学・専門学校に啓発資材の配布を依頼し、若年層への感染防止を行いながらの啓発を働きかけた。 また、京都府では6月及び7月を薬物乱用防止広報強化期間としており、各団体の広報媒体を用いての運動の周知及び国連支援募金への呼びかけを行った。 ②地域団体キャンペーン 各種関係団体の店頭等へのポスターの掲示及び募金箱の設置を依頼し、キャンペーンの周知と国連支

<b>大府</b>	援募金への呼びかけを行った。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域でのイベントの中止なども相次いだ。各市区薬物乱用防止指導員協議会ではポスターの掲示や、「社会を明るくする運動」の一環としてオンラインでの講演会を開催など、感染症に配慮した活動が行われた。
	<b>活動状況</b>
<b>活動状況</b>	関係機関、協力団体・企業等の協力を得て啓発ポスターの掲示やリーフレットの配架等を実施するとともに、国連支援募金箱を設置することで、啓発並びに募金協力呼びかけを行った。また、府広報誌や公式SNS、市町村広報誌等を利用した運動の周知並びに啓発を図った。
<b>開催場所</b>	行政機関、協力団体
<b>活動主体</b>	行政機関、協力団体
<b>月 日</b>	6月20日～7月19日
<b>開催場所</b>	行政機関、協力団体
<b>活動主体</b>	行政機関、協力団体
<b>月 日</b>	6月20日～7月19日
<b>開催場所</b>	行政機関、協力団体
<b>活動主体</b>	行政機関、協力団体
<b>月 日</b>	6月27日
<b>開催場所</b>	神戸市中央区(神戸元町1番街商店街)
<b>活動主体</b>	兵庫県、兵庫県薬物乱用防止指導員協議会、神戸地区薬物乱用防止指導員協



大阪府

議会
参加人員 6人

**活動状況**

本年度は、新型コロナウイルス感染症による感染拡大防止の観点から、地域の実情等に合わせ、神戸地区のみ街頭キャンペーンを実施した。実施の際は、活動参加者を最小人数の6名（会長及び事務局員）とし、啓発用ビブスに加え、感染防止対策のためマスクと手袋を着用の上、買い物客が戻りつつある神戸元町商店街内で、人の滞留が無いよう活動参加者も点在しながら、啓発用リーフレット及び啓発用ウエットティッシュを配布し、薬物乱用の害や危険性を訴えた。

街頭キャンペーンを中止とした11地区を含め、各事務所内外で、来庁者等への啓発グッズの配布、ポスターやのぼり、啓発パネル、募金箱等の設置や、主要な駅に横断幕を掲げる等、地域住民への啓発を行った。



兵庫県

**奈良県**

**活動状況**

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のためやむを得ず街頭キャンペーンを行わず、代わりにポ

スター掲示による啓発を行うこととした。

警察署や各保健所、県内ライオンズ他各関係団体や県内のコンビニ130店舗、県内イオン各店舗に掲示依頼を行った。

**和歌山県**

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	和歌山県内一円
活動主体	和歌山県、和歌山県薬物乱用防止指導員協議会、和歌山県薬物乱用対策推進本部

**活動状況**

① 6・26ヤング街頭キャンペーン中止。

② 地域団体キャンペーン  
関係団体等の協力により、啓発ポスターを店頭に掲示するとともに、医薬品関係業者、生活衛生関係業者の店舗や職場において、国連支援募金活動を実施した。

**鳥取県**

月 日	令和2年7月
開催場所	県内全域
活動主体	鳥取県

**活動状況**

① 6・26ヤング街頭キャンペーン  
今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、街頭キャンペーンについては、県内各地区とも中止とした。

② 地域団体キャンペーン  
各団体はもとより、各市町村及び県地方機関等にもポスター、募金箱等を送付し啓発に努めるとも

に、国連支援募金への協力依頼を実施した。

その他、「子ども向け薬物乱用防止リーフレット」を作成し、県内の全中学生へ配布するとともに、各学校における薬物乱用防止教室の開催等を依頼した。



鳥取県

**島根県**

**活動状況**

① 6・26ヤング街頭キャンペーン  
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。

② 地域団体キャンペーン  
市町村、警察署、医療機関、薬局等の協力によりポスターの掲示やリーフレット等啓発資料の配布を行ったほか、各機関の窓口へ募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。

**岡山県**

**活動状況**

① 6・26ヤング街頭キャンペーン  
岡山県では新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、令和2年度の6・26ヤング街頭キャンペーンは中止としました。

代替となる普及啓発活動としては以下のとおりです。

- ・普及運動期間中に、高等学校に普及運動のリーフレットを配布した
- ・各高等学校のホームルーム時間等に啓発資料を配布し、薬物の乱用防止を呼びかけた
- ・薬と健康の週間等、他団体の行うイベントに合わせて啓発を行った
- ② 地域団体キャンペーン  
関係機関の窓口等へ募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけました。

## 広島県

### 活動状況

6・26ヤング街頭キャンペーンは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施を見送ったため、代替となる活動を次のとおり行った。

- ① 薬務課及び県保健所のホームページに「ダメ。ゼッタイ。」普及運動についてのページを作成、掲載した。
- ② 保健所内の掲示スペースにポスターを掲示した。
- ③ ラジオ番組に出演した。

月 日 6月17日(水) 17:20～17:30

番組名 イブニングスペシャル(FMみはら)

概要 薬物乱用防止の啓発活動についてパーソナリティーと対話形式で、生放送を行った。  
担当 (広島県東部保健所生活衛生課)

## 山口県

月 日	開催場所	活動主体
① 6月15日～26日 ② 6月17日	① 山口県庁 ② ラジオ	山口県健康福祉部薬務課

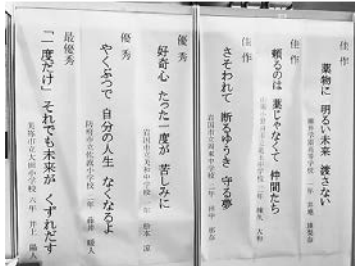
### 活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン  
今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。

② 地域団体キャンペーン  
(1) 山口県庁において、薬物乱用防止普及啓発に係るポスターや令和元年度薬物乱用防止ポスター及び標語の入賞作品の展示を行った。また、啓発物(リーフレット、クリアファイル等)も配置し、薬物乱用の恐ろしさを来庁者に訴えた。

(2) 山口県独自の取組である、薬物乱用の無い安心・安全な社会を築くことを目的とした、「ダメ。ゼッタイ。薬物乱用」県民キャンペーン(6月10日～8月31日)について、ラジオ放送により周知した。

また、薬物は自らの体や心だけではなく、家族や周囲の人々の人生も取り返しのつかないものにしてしまうことを広く訴え、「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、「薬物乱用のない安心・安全な山口県」の実現への協力を求めた。



山口県

## 徳島県

月 日	活動主体
6月20日～7月19日まで	(地域団体キャンペーン)

### 開催場所

県下一円(地域団体キャンペーン)

### 活動主体

県、県薬物乱用防止協議会(県下6地区協議会)

### 活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン  
本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響のため、薬物乱用防止指導員のほか、中学生、高校生をはじめとするヤングボランティア、各警察署、ライオンズクラブ等の関係機関・関係団体の協力を得ての開催が困難となったことや、感染拡大を防止するため、例年実施をしてきた6・26ヤング街頭キャンペーンは中止となった。

② 地域団体キャンペーン  
薬物乱用防止地区協議会及び薬物乱用防止指導員を活動主体として、県内市町村役場、各事業所、店舗等の協力を得て、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動のポスターの掲示や募金箱の設置を行い、国連支援募金活動を実施した。



徳島県

## 香川県

月 日	活動主体
6月20日～7月19日	香川県、各保健所薬物乱用防止対策連絡協議会、香川県麻薬・覚醒剤・シンナー禍対策推進員、市町、警察署、保

開催場所	四国中央市、西条市、今治市、松山市の計4ヶ所
月 日	6月16日～7月20日

## 愛媛県



香川県

活動状況	今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、パレード等のイベントは中止とした。県下4箇所の薬物乱用防止対策連絡協議会が中心となり、市町、警察署、ライオンズクラブ等の関係機関・民間団体の協力を得て、県内の各施設において募金箱の設置やポスターの掲示を行った。 また、小豆地区においては、「6・26国際麻薬撲滅デー」街頭キャンペーンの代替として、令和2年10月24日に「麻薬・覚醒剤乱用防止運動」に併せて、薬物乱用防止キャンペーンを実施する予定。
活動主体	護観察所、税関支署、海上保安署、ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト、少年育成センター、更生保護女性会、保護司会、薬剤師会、小学生、中学生、高校生、教員 等

## 活動主体

高知県、高知県薬物乱用防止推進連絡協議会、東部・中央東・高知市・中央

## 高知県



愛媛県

活動状況	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮し、例年実施している街頭でのパレード等は開催を見送り、薬物乱用のない社会環境づくりを目指し、関係施設における薬物乱用防止パネル展を実施した。その他、薬物乱用防止啓発用ポスター作品の掲示やパネルの展示に併せ、リーフレット、絆創膏、その他ポケットティッシュ等の啓発資材を配布して、薬物乱用防止を広く県民に呼びかけた。
参加人員	10名（主催者側）
活動主体	愛媛県、愛媛県薬物乱用防止指導員協議会（愛媛県保護司会連合会、ライオンズクラブ、愛媛県薬剤師会、愛媛県薬業協会、愛媛県少年警察ボランティア協会、愛媛県配置薬業協会、愛媛県ジュネリック販社協会、愛媛県登録販売者協会）

活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、実
活動主体	

開催場所	福岡県内一円
月 日	令和2年6月20日～7月19日
活動主体	県、県薬物乱用対策推進本部、ライオンズクラブ国際協会3371A地区、福岡県麻薬協会、(公社)福岡県医師会、(一社)福岡県歯科医師会、(公社)福岡県薬剤師会、(一社)福岡県医薬品登録販売者協会、福岡県医薬品卸業協会、(公社)福岡県医薬品配置協会、(公社)福岡県製薬工業協会、福岡県医療機器協会、福岡県保護司会連合会、福岡県更生保護女性連盟、福岡県BBS連盟、日本ボーイスカウト福岡県連盟、(一社)ガールスカウト福岡県連盟

## 福岡県

活動状況	例年、県下6地区の薬物乱用防止推進協議会が中心となり、ヤングボランティア等の協力を得て、パレード等の街頭キャンペーンを実施し、薬物乱用防止の啓発資材の配布や募金活動等を行っているが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、各地区の状況に応じて、イベントの中止もしくは実施の延期を検討している。
活動主体	西・高稜・幡多の各地区薬物乱用防止推進協議会、ヤングボランティア(ボーイスカウト、小学生、中学生、高校生、大学生等)、民生委員、保護司、ライオンズクラブ国際協会3361A地区、関係行政機関職員



## 6.26 各地区の活動スナップ



埼玉県 (JR 北朝霞駅及び東武東上線朝霞台駅)



TSUNEI さん (シンガーソングライター)

Negicco (アイドルユニット)

稲垣啓太さん (ラグビー選手)

新潟県警察ノードラッグ大使の呼びかけ



兵庫県 (神戸元町1番街商店街)



京都府



## 6.26 各地区の活動スナップ



茨城県



長崎県



福岡県



東京都



静岡県



三重県



愛媛県



# ポスターでみる「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の歩み

【1993年～2020年】



1993年



1994年



1995年



1996年



1997年



1998年



1999年



2000年



2001年



2002年



2003年



2004年



2005年



2006年



2007年



2008年



2009年



2010年



2011年



2012年



2013年



2014年



2015年



2016年



2017年



2018年



2019年



2020年





## 『薬物乱用防止レクチャーパネルセット』

予防啓発のためのインパクトのあるツールとして、最新情報を加えたパネルセットを開発しました。パネル①は薬物には絶対に手を出さないという誓いの結論を、パネル②③④では注意すべき代表的な違法薬物を写真で構成、パネル⑤はCGを使って各部への影響を示し、パネル⑥⑦で依存のメカニズムを分かりやすくイラスト等で表現、最後のパネル⑧には現在のトレンドとして捜査現場の貴重な素材を許可を得て展開しています。対象者にとって実感のある指導のためにぜひお役立てください。

- |                                    |                  |
|------------------------------------|------------------|
| ■薬物乱用防止指導者の皆さまへ                    | : 学校の「薬物乱用防止教室」で |
| ■行政、保健所、調剤薬局(薬剤師)の皆さまへ             | : 地域ぐるみの予防啓発に    |
| ■都道府県警、全国麻薬取締部、税関等取締機関の方々へ         | : 地区の広報啓発活動に     |
| ■学校、専門学校、大学、関連研究所(室)等教育研究機関の方々へ    | : 教材、資料として       |
| ■法人企業、各種文化・スポーツ競技団体等のコンプライアンス担当者様へ | : 企業研修会等で        |

- セット内容 / B2 サイズパネル (7mm 厚スチレンボード・ラミネート加工・アルミフレーム・壁掛け用チェーン付) 8 種
- 価格 / 180,000 円 (全 8 種 税込) (内訳 / 1 枚当たり 22,500 円)



パネル①  
「薬物乱用は ダメ。ゼッタイ。」



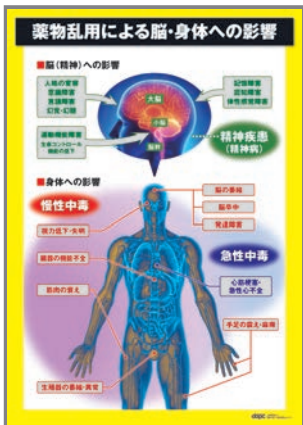
パネル②  
「乱用される薬物 大麻」



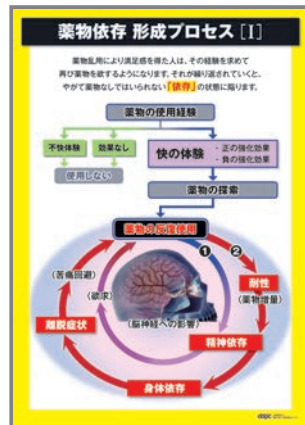
パネル③ 「乱用される薬物 覚醒剤 / 危険ドラッグ」



パネル④  
「乱用される薬物 麻薬」



パネル⑤  
「薬物乱用による脳・身体への影響」



パネル⑥  
「薬物依存 形成プロセス I」



パネル⑦  
「薬物依存 形成プロセス II」



パネル⑧  
「薬物犯罪の傾向」

■お申込み・詳細について / 財団ホームページ <http://dapc.or.jp>

施していない。

代替活動として、県庁1階ロビーにおいて、ポスターの掲示及びラジオ番組による「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の告知を行い、県民に広く周知した。

②地域団体キャンペーン  
「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間中、各市町村、関係団体等に対しては、啓発用ポスターの掲示や国連支援募金箱の設置等の協力を依頼した。

県庁において、薬物乱用を県民に広く周知するため、懸垂幕を掲示した。



福岡県



### 佐賀県

月 日

6月20日～7月19日

### 活動主体

佐賀県、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、薬剤師会、保護司会連合会、少年補導員連絡協議会、地域婦人連絡協議会、高等学校、ライオンズクラブ、BBS連盟、ボーイスカウト、ガールスカウト、警察署 等

### 活動状況

①ヤング街頭キャンペーン  
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。  
②地域団体キャンペーン  
各協力団体、市町、県警本部、県庁各機関等において、ポスターの掲示による啓発や募金箱の設置により国連支援募金活動を実施した。

### 長崎県

### 活動主体

長崎県薬務行政室、薬物乱用防止指導員協議会、長崎県警察本部、長崎県薬剤師会、長崎県医薬品登録販売者協会、長崎県保護司会連合会、長崎県防犯協会連合会、ライオンズクラブ国際協会337-C地区、長崎県医薬品配置協会、日本ボーイスカウト長崎県連盟、長崎県PTA連合会、長崎BBS連盟、長崎税関、各市町 等

### 活動状況

①6・26「ダメ。ゼッタイ」ヤング街頭キャンペーン  
例年6月20日から7月19日までの間、薬物乱用防止を呼びかける「ダメ。ゼッタイ。」普及運動を県内各地区で実施していましたが、今年度は、一般の新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、「6・26」ダメ。ゼッタイ」ヤング街頭キャンペーンの実施は見合わせることにした。

### ②地域団体キャンペーン

各団体の協力を得て関係施設に啓発用ポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置して国連支援募金活動に協力した。また、県庁舎に「ダメ。ゼッタイ。」普及運動横断幕を掲示し、啓発活動を行った。

### ●青少年への啓発活動

新型コロナウイルスの影響で中止になった全国高校野球選手権長崎大会(甲子園予選)の代替大会「長崎県高校野球大会」において、長崎市の県営ビッグNスタジアム及び佐世保市総合グラウンド野球場にて「ダメ。ゼッタイ。」普及横断幕を設置し、来場者に対し啓発を行った。また、県内自動車学校等若者が多く集まる場所でポスターを掲示し、チラシの配布を行った。

### 熊本県

月 日  
開催場所

6月20日～7月19日  
県内一円

### 活動主体

熊本県、熊本県薬物乱用対策推進本部、熊本県薬物乱用防止指導員連合協議会、ライオンズクラブ国際協会337-E地区、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動熊本県実行委員会、各市町村、熊本県教育委員会、(公社)熊本県医師会、(一社)熊本県歯科医師会、(公社)熊本県薬剤師会、(一社)熊本県医薬品登録販売者協会、(一社)熊本県医薬品配置協会、熊本県製薬協会、熊本県医薬品卸業協会、熊本県歯科用品商組合、日本薬局協会の熊本県支部、阿蘇製薬(株)、(株)再春館製薬所、リパテープ製薬(株)、KMバイオロジクス株式会社、(二財)化学及血清療法研究所、熊本県保護司会連合会、熊本

活動状況	<p>県防犯協会連合会、熊本県少年警察ボランティア連絡協議会、熊本県社会教育委員連絡協議会、熊本県地域婦人会連絡協議会、熊本県更生保護女性連盟等</p>
	<p>① 6・26ヤング街頭キャンペーン          新型コロナウイルス感染症の影響に伴い街頭キャンペーン中止。今年度は、麻薬・覚醒剤乱用防止運動期間中（10月～11月）に住民等に対して声掛けや啓発資材の配布等を予定している。</p> <p>② 地域団体等キャンペーン          県内各保健所、薬局・医薬品販売業者、病院、自衛隊駐屯地等の各種団体・機関において、ポスターの掲示による啓発及び国連支援募金への協力依頼を行った。</p>

## 大分県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	大分県内
活動主体	大分県、大分県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会
活動状況	<p>① 6・26ヤング街頭キャンペーン          今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止としたが、一部地域のみ実施した。          （日時…6月9日 場所…竹田市 参加者…34名 啓発人数…150名）</p> <p>② 地域団体キャンペーン          県内10地域において、大分県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会委員や地域の企業等の協力を得て、店舗等の店頭「ダメ。ゼッタイ。」ポスターの掲示、同募金箱を設置した。</p>

活動状況	<p>・各市町村、病院、県警察本部、各地域振興局、教育事務所等の県内の各種関係機関に国連支援募金への協力依頼を実施した。</p> <p>・期間中交通量の多い大分市内の歩道橋二カ所、佐伯市、別府市の歩道橋一カ所に「ダメ。ゼッタイ。」普及運動横断幕を掲示し、啓発活動を行った。</p> <p>・薬物乱用防止教室等を実施した際、学生に対しリーフレット、絆創膏等を配布し、啓発活動を実施した。（一部地域）</p> <p>・小中学校に対して、薬物乱用防止及び薬の適正使用についてほげんだより等への掲載を依頼した。（一部地域）</p>
------	---

## 宮崎県

月 日	令和2年6月20日～7月19日
開催場所	県内一円
活動主体	宮崎県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 宮崎県薬物乱用防止指導員協議会 宮崎市、宮崎県
活動状況	<p>① 6・26ヤング街頭キャンペーン          開催中止</p> <p>② 地域団体キャンペーン          各関係機関、関係団体、市町村、大学等に対して、ポスターの掲示や国連支援募金への協力依頼を行った。</p>

## 鹿児島県

活動主体	県、県薬物乱用対策推進地方本部、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動県実行委員会、各薬物乱用防止指導員地区協議会
------	--

活動状況	<p>その他関係機関・団体</p> <p>① 6・26ヤング街頭キャンペーン          新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、6・26ヤング街頭キャンペーンは中止した。代替として、鹿児島県のホームページに「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の周知及び普及啓発を図った。</p> <p>② 地域団体等キャンペーン          後援団体等の協力を得て、募金箱の設置やポスターの掲示を行うとともに、各種研修等において啓発活動を展開した。</p>
------	---

## 沖縄県

月 日	6月29日～7月3日
開催場所	那覇市 計 1 箇所
活動主体	県、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 県薬物乱用防止協会
活動状況	<p>① 6・26ヤング街頭キャンペーン          新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、街頭キャンペーンは中止とした。          代替となる普及啓発活動として、沖縄県庁1階県民ホールにおいて、ポスターやパネルの掲示を行ったほか、リーフレット等を自由に持ち帰ることができるよう配置した。</p> <p>② 期間中に、①以外に（1）国連支援募金、（2）県の広報機関を利用した普及啓発（電光掲示板による広報、県広報誌への掲載）、（3）市町村への協力呼びかけ（国連支援募金及びポスター等の掲示）及び（4）県内各関係機関への普及・啓発依頼を行った。</p>

# 薬物乱用防止啓発キャラバンカー

## による啓発の実際

(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター  
薬物乱用防止啓発キャラバンカー指導員 秋 葉 敏 幸

### ●キャラバンカーとの出会い

薬物乱用防止啓発キャラバンカーを担当して26年が過ぎ、学校啓発だけでも約2千校以上の学校を訪問しました。

日本全国の学校から啓発指導の依頼を受け、今日は神奈川、明日は宮城」と忙しい日々を過ごした頃を思い出します。

今では笑い話になりますが、学校にキャラバンカーが停車していると、『この学校の生徒に薬物乱用者が出たらしい』と周辺住民の誤解を招く事もしばしばありました。

その時代はまだ学校での薬物乱用防止啓発の必要性が現在ほど認識されていなかったように思います。

今では誰もが薬物乱用は「いけない」、「危ない」と理解していますが、薬物関連の話題が連日報道されているように、未だに薬物を乱用する人が後を絶ちません。

これは薬物がネット等で簡単に入手できることも要因の一つと考えられますが、手を出すか出さないかは、薬物乱用の危害について正しい知識が備わっていれば、薬物に手を染めることはない筈です。

昔は「寝た子を起こすな」という方針で薬物

乱用防止啓発を考えていた方もいましたが、今の子どもたちはとっくに起きています、間違った起こし方をするので過ちが起きてしまいます。だから、正しく、やさしく子供を起こし、小さいころから薬物の怖さ、体への危害を復習して覚えることにより、社会に出た時に遭遇する「悪い誘い」を断る勇氣を持つことができます。

キャラバンカーで全国を回ってみて感じたことは、どの地域の子供たちも、周囲の大人をよく見えています。そして、その行動を見て良いことも、悪いことも真似をします。

学校の方々と協力して薬物乱用防止の指導を行っても、共に生活をしている家族が薬物乱用防止の問題に関心がなく、たばこ、お酒と同程度のものという考え方は薬物乱用防止の正しい知識を子供たちに伝えることができません。

薬物乱用防止の大切さは、未来を担う子供たちが少しの薬物で大事な一生を駄目にしないように身近にいる大人が『薬物の乱用は身体に大変な害があり、たった一度の過ちで、普通の生活ができず一生後悔する』と、しっかり子供たちに伝えてほしいと思います。



旧 車輛 バス型 1991年製作



(製作台数)	
1991年	1台
1998年	1台
2000年	3台
2001年	3台



現 車輛 トラック型 2014年製作

●キャラバンカーの変遷

最初のキャラバンカーは1991年に製作され、その後1998年に2台目、さらに2000年と2001年にそれぞれ3台が製作され、この8台体制で全国各地の学校啓発を行ってきました。

現在稼働中のキャラバンカーは2014年に製作したトラック型の1台で、主に啓発依頼者からの派遣協力金を基に関東地域に限定した有償派遣活動を行っています。

学校(リピーター)、教育委員会、薬剤師会、地域行政イベント等を主な派遣先として年間100箇所以上で啓発を実施しています。ここ最近では、薬物乱用防止企業研修として法人からの要請が増えています。



企業研修

●キャラバンカーによる学校啓発  
薬物乱用防止啓発キャラバンカーの利点は、薬物乱用の怖さを言葉だけで説明するのではなく、キャラバンカーに装備してある薬物標本、パソコン・Q&Aクイズ、展示パネル等を通じて薬物乱用による身体への影響等を自ら体験しながら理解できることです。  
このキャラバンカー体験学習の他にDVDの視聴、指導員の事前薬物乱用防止講話等を組み合わせることで、聞くだけ、見るだけの啓発に比べ、参加生徒の記憶に残る薬物乱用防止啓発が可能となります。



学校啓発



イベント啓発

(当日の学校啓発(約60分)の流れ)

事項	所要時間	主な内容と注意点
事前打合せ	30分	担当先生と打合せ (学校側から講話に含ませる内容を聴取、生徒の特徴 等々…)
全体講話	20分	生徒が講話に集中できる限界は20分です。 各薬物の作用、身体への害、なるべく飽きさせない内容で会話調の説明をすることを心掛けます。 薬物の価格、使用方法等は学校啓発に不向きな内容となりますので控えるようにしてください。 身体への影響について具体的な例を示すなど生徒目線で分かり易く説明します。(心拍数の増加、呼吸が出来ない等) 講話の最後に生徒全員に対して「質問(テーマ)」を与え、啓発DVD視聴、キャラバンカー体験学習の後に「総合まとめ」時に生徒の代表者から回答を発表してもらいます。(この後のキャラバンカー内では真剣に調べる生徒達の様子が伺えます。)
啓発DVD視聴	15分	啓発対象の学年を考慮したDVD映像を放映します。
キャラバンカー体験	15分	生徒からの質問に対応します。
総合まとめ	10分	出題したテーマの回答と質疑に答えます。 質疑では最初の一人が重要です。一人が質問すると次につながります。 質疑が出やすい雰囲気作りが大事です。



●生徒からの質問

これまでの学校啓発（中学校）で受けた質問を以下に記載します。

なお、回答につきましては秋葉（akiha@dapic.jp）までご連絡いただければ対応させていただきます。

乱用薬物の種類と形状

Q 薬物はどのような呼び方で売られているのですか（女）

Q 薬物は約何種類あるのですか（男）

Q どうしたらクッキーや飲み物と混ざった薬物を見分けられるのですか（女）

Q 薬物はどうやってできるのですか またにおいはするのですか（女）

Q なぜチョコ等の名前がついているものが多いのですか（女）

Q 薬物はどこで生産されているのですか（男）

薬物乱用者について

Q 薬物を1回でも乱用してしまった人は1回見ただけで分かりますか、大麻などを所持している人はどういふ所から手に入れているのですか（男）

Q 薬物をすすめてくる人の特徴はなんですか（男）

Q 県内の中学生で薬物使用により逮捕された人はいますか（女）

Q 薬物乱用者が多い国はどこですか たばこは薬物ですか（男）

Q 中学生でも薬物乱用してしまった人はいますか、乱用したことがある人は身体に特徴的なものはありますか（女）

Q 年間で何人の人が薬物を使用していますか、薬物は一度にどのくらい身体に入れるのですか（女）

Q ○○市の中で使用したことがある人はどのくらいいますか（女）

ますか（女）

Q 薬物乱用した人に課せられる罰はどのようなものですか（女）

Q 合法化されている国の人々は薬物を飲んでも大丈夫なのですか（男）

Q 薬物依存は日本に何人いますか 薬物依存は治せますか（男）

Q 薬物乱用してしまう人の共通点がありますか（狙われやすいのはどんな人）

Q 今まで薬物乱用した人で最年少は何歳ぐらいですか（女）

Q 薬物を完全に断ち切ることはできるのですか（女）

Q もし友だちが薬物乱用をしたらどうすればいいのですか（女）

Q 薬物を使い始めてしまう人の割合が多いのは何歳ぐらいですか（男）

薬物の作用と症状について

Q 薬物は医療以外の活用の利点がありますか（男）

Q なぜ大麻をしたら幻覚が見えるのですか（男）

Q 一番効果が強い薬物は何ですか なぜ使うと同じ動きを繰り返すのですか（男）

Q 大麻と同じ成分のものはあるのですか（男）

Q 薬物乱用時の症状は何に一番似ていますか（女）

Q 一番依存から抜け出しにくい薬物がありますか（男）

Q 薬物乱用から抜け出すにはどのくらいの時間がかかるのですか（女）

Q フラッシュバックはなぜなるのですか（女）

Q 薬物の規制が緩い国では、問題行動がないようにどんな対処をしているのですか（女）

Q 薬物を大量摂取すると薬物乱用になりますか、どんな危険がありますか（男）

Q 薬物を入れて飲んでしまった場合、どうしたらいいのですか（男）

Q 薬物はなぜ依存性が高いのですか（男）

Q たばこも薬物の違いは何ですか（どちらも中毒性があり身体に悪いのに）（女）

Q 幻覚はどんなものが見えるのですか（男）

Q 薬物を治療で使うとき何日くらいかかるのですか（男）

Q なぜ覚醒剤などを使用すると脳の組織が壊れてしまうのですか（男）

Q 薬物乱用をして生きられる確率は（女）

密造、密輸、密売について

Q 薬物をなぜ人にすすめようとするのですか（男）

Q 輸入されたりするのを防止することはできないのですか、もし知り合いが薬物を使っていたらどうしたらいいのですか（女）

Q なぜネットなどで簡単に買ってしまうのですか（男）

Q 普通の人は薬物を手に入れる方法が分からないのに、なぜ乱用している人は方法が分かって手に入ってしまうのですか（女）

薬物の歴史について

Q なぜ薬物は作られたのですか、この世から無くすことはできないのですか、いつ頃から薬物が出回るようになったのですか（女）

その他

Q なぜたばこは犯罪ではないのですか（男）

Q 取り締まりで回収した薬物はどこに捨てるのですか（男）

Q 薬物乱用防止教室の先生をやるうと思っただけはなぜですか（男）

Q たばこも薬物乱用の対象になるときが来ますか（女）

Q 講師の先生方はどのような仕事をしているのですか 薬物の中で一番怖いものはなんですか（男）

# 令和元年中の薬物情勢について

(令和2年4月警察庁組織犯罪対策部組織犯罪対策企画課公表資料「令和元年における組織犯罪の情勢」より抜粋)

令和元年における薬物情勢の特徴としては、以下のことが挙げられる。

- 薬物事犯検挙人員は近年横ばいが続く中、13,364人と前年からわずかに減少した。  
このうち、覚醒剤事犯検挙人員は、近年減少が続く中、令和元年においても8,584人と引き続き減少した。一方で、大麻事犯検挙人員は、若年層を中心に平成26年以降増加が続き、令和元年も4,321人と過去最多となった前年を大幅に上回っており、大麻事犯検挙人員の増加が薬物事犯検挙人員全体を押し上げた。
- 覚醒剤の密輸入事犯検挙件数は273件と前年から大幅に増加し過去最多となった。このうち航空機利用の携帯密輸についても189件と前年から大幅に増加し、統計を取り始めた平成8年以降で最多となった。  
覚醒剤の密輸入押収量は609.5キログラムと依然として高水準にあるほか、覚醒剤の総押収量は2,293.1キログラムと前年から大幅に増加し過去最多となるとともに、4年連続で1,000キログラムを超えた。
- 大麻栽培事犯の検挙人員は近年増加傾向にあり、164人と前年から増加し、大麻草押収量(本数)は8,074本と前年から増加した。
- 危険ドラッグ事犯の検挙人員は182人と、前年に引き続き大幅に減少した。

上記のとおり、覚醒剤事犯検挙人員は減少しているものの、覚醒剤の密輸入事犯検挙件数は増加傾向であることに加え、覚醒剤の総押収量は2,000キログラムを超え過去最多を記録していることなどから、引き続き密輸・密売事犯の検挙を通じた覚醒剤の供給網の遮断に向けた取締りを推進することとしている。また、大麻事犯検挙人員は前年に引き続いて過去最多を更新し、若年層の増加傾向が継続していることなどから、大麻事犯の取締りの強化及び大麻乱用防止に係る広報啓発活動を推進することとしている。

## 1 薬物事犯の検挙状況

薬物事犯の検挙人員は、近年横ばいで推移している中、13,364人と前年からわずかに減少した。このうち暴力団構成員等の検挙人員は4,576人で、薬物事犯の検挙人員の34.2%を占めているが、検挙人員・薬物事犯に占める割合とも減少傾向にある。外国人の検挙人員は近年増加傾向にあり、1,163人と前年からわずかに増加し、3年連続で1,000人を超えており、薬物事犯の検挙人員の8.7%を占めている。

〔薬物事犯別検挙件数及び検挙人員の推移〕

区分		年別				
		H27	H28	H29	H30	R元
覚醒剤事犯	検挙件数	15,980	15,219	14,325	14,135	12,020
	検挙人員	11,022	10,457	10,113	9,868	8,584
	暴力団構成員等	5,712	5,067	4,751	4,645	3,738
	構成比率(%)	51.8	48.5	47.0	47.1	43.5
	外国人	591	605	706	632	761
	構成比率(%)	5.4	5.8	7.0	6.4	8.9
大麻事犯	検挙件数	2,771	3,439	3,965	4,687	5,435
	検挙人員	2,101	2,536	3,008	3,578	4,321
	暴力団構成員等	591	649	742	762	780
	構成比率(%)	28.1	25.6	24.7	21.3	18.1
	外国人	154	18.1	250	253	279
	構成比率(%)	7.3	7.1	8.3	7.1	6.5
麻薬及び 向精神薬事犯	検挙件数	706	784	840	862	945
	MDMA等合成麻薬	109	86	107	122	178
	コカイン	230	364	392	434	482
	ヘロイン	8	3	19	14	13
	その他	359	331	322	292	272
	検挙人員	398	412	409	415	457
	暴力団構成員等	80	65	69	50	58
	構成比率(%)	20.1	15.8	16.9	12.0	12.7

	外国人	71	82	102	133	123
	構成比率 (%)	17.8	19.9	24.9	32.0	26.9
	MDMA 等合成麻薬	45	38	42	50	82
	暴力団構成員等	11	6	11	5	6
	構成比率 (%)	24.4	15.8	26.2	10.0	7.3
	外国人	6	7	5	18	30
	構成比率 (%)	13.3	18.4	11.9	36.0	36.6
	コカイン	86	142	177	197	205
	暴力団構成員等	14	34	38	36	47
	構成比率 (%)	16.3	23.9	21.5	18.3	22.9
	外国人	32	50	70	83	63
	構成比率 (%)	37.2	35.2	39.5	42.1	30.7
	ヘロイン	3	0	9	10	6
	暴力団構成員等	0	0	0	0	0
	構成比率 (%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	外国人	3	0	9	6	5
	構成比率 (%)	100.0	0.0	100.0	60.0	83.3
	その他	264	232	181	158	164
	暴力団構成員等	55	25	20	9	5
	構成比率 (%)	20.8	10.8	11.0	5.7	3.0
	外国人	30	25	18	26	25
	構成比率 (%)	11.4	10.8	9.9	16.5	15.2
あへん事犯	検挙件数	6	11	12	6	4
	検挙人員	3	6	12	1	2
	暴力団構成員等	0	0	0	0	0
	構成比率 (%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	外国人	1	0	0	0	0
	構成比率 (%)	33.3	0.0	0	0	0.0
合計	検挙件数	19,463	19,453	19,142	19,690	18,404
	検挙人員	13,524	13,411	13,542	13,862	13,364
	暴力団構成員等	6,383	5,781	5,562	5,457	4,576
	構成比率 (%)	47.2	43.1	41.1	39.4	34.2
	外国人	817	868	1,058	1,018	1,163
	構成比率 (%)	6.0	6.5	7.8	7.3	8.7

注1：本表の数値には、各薬物に係る麻薬特例法違反の検挙件数・人員の数値を含む。

注2：本表の薬物事犯は、覚醒剤事犯、大麻事犯、麻薬及び向精神薬事犯及びあへん事犯をいい、犯罪統計による。

覚醒剤事犯の検挙人員は、薬物事犯の検挙人員の64.2%を占め、その割合は平成24年以降減少している一方で、大麻事犯の検挙人員は、薬物事犯の検挙人員の32.3%を占め、その割合は平成25年以降増加している。

〔薬物事犯別検挙人員の構成比率の推移〕

区分 \ 年別	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
覚醒剤事犯 (%)	82.5	86.1	86.0	84.2	83.5	81.5	78.0	74.7	71.2	64.2
大麻事犯 (%)	15.3	12.0	11.9	12.0	13.4	15.5	18.9	22.2	25.8	32.3
その他 (%)	2.2	1.9	2.1	3.8	3.1	3.0	3.1	3.1	3.0	3.4

## 2 主な薬物事犯の傾向、特徴

### (1) 覚醒剤事犯

覚醒剤事犯の検挙人員は、第三次覚醒剤乱用期のピークである平成9年以降、長期的にみて減少傾向にあり、令和元年も8,584人と減少し、前年に引き続き1万人を下回った。

また、覚醒剤事犯の検挙人員のうち、暴力団構成員等は3,738人と検挙人員の43.5%、外国人は761人と検挙人員の8.9%を占めている。

## 〔覚醒剤事犯検挙人員の推移〕

区別	年別	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 元
	覚醒剤事犯検挙人員		11,993	11,852	11,577	10,909	10,958	11,022	10,457	10,113	9,868
	暴力団構成員等	6,322	6,553	6,373	6,096	6,024	5,712	5,067	4,751	4,645	3,738
	構成比率 (%)	52.7	55.3	55.0	55.9	55.0	51.8	48.5	47.0	47.1	43.5

## ア 年齢層別の検挙状況

令和元年の人口10万人当たりの検挙人員は、20歳未満が1.4人、20歳代が8.3人、30歳代が15.3人、40歳代が15.4人、50歳以上が4.8人であり、最も多い年齢層は40歳代、次いで30歳代となっている。

## 〔覚醒剤事犯年齢別検挙人員の推移〕

区分		年別	H27	H28	H29	H30	R 元
覚醒剤事犯	検挙人員		11,022	10,457	10,113	9,868	8,584
		人口10万人当たりの検挙人員	10.7	10.4	9.9	9.7	8.5
	年齢別	50歳以上	2,324	2,353	2,347	2,615	2,323
		人口10万人当たりの検挙人員	4.9	5.0	4.9	5.5	4.8
		構成比率 (%)	21.1	22.5	23.2	26.5	27.1
	40～49歳	人口10万人当たりの検挙人員	20.5	19.7	18.9	17.7	15.4
		構成比率 (%)	34.3	34.4	35.5	34.0	33.6
	30～39歳	人口10万人当たりの検挙人員	21.0	20.0	18.6	17.6	15.3
		構成比率 (%)	30.7	29.5	28.3	26.8	26.1
	20～29歳	人口10万人当たりの検挙人員	11.0	10.2	9.8	9.3	8.3
		構成比率 (%)	12.9	12.3	12.1	11.8	12.1
	20歳未満	人口10万人当たりの検挙人員	1.7	1.9	1.3	1.4	1.4
		構成比率 (%)	1.1	1.3	0.9	1.0	1.1
		うち中学生	1	7	0	3	3
		うち高校生	14	18	8	13	10
	大学生			18	8	19	15

注1：算出に用いた人口は、各前年の総務省統計資料「10月1日現在人口推計」又は「国勢調査結果」による。

注2：20歳未満の人口10万人当たりの検挙人員は14歳から19歳までの人口を基に、50歳以上の人口10万人当たりの検挙人員は50歳から79歳までの人口を基にそれぞれ算出。

## イ 再犯者率

覚醒剤事犯の再犯者率は、平成19年以降13年連続で増加しており、令和元年は66.3%となっている。

## 〔覚醒剤事犯の再犯者率の推移〕

区分		年別	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 元
覚醒剤事犯	検挙人員		11,993	11,852	11,577	10,909	10,958	11,022	10,457	10,113	9,868	8,584
		再犯者数	7,114	7,038	7,116	6,899	7,067	7,147	6,804	6,647	6,521	5,687
		再犯者率 (%)	59.3	59.4	61.5	63.2	64.5	64.8	65.1	65.7	66.1	66.3
	年齢別 再犯者率	50歳以上	81.2	81.5	81.3	79.8	80.2	83.1	82.3	82.4	82.6	83.1
		40～49歳	72.2	70.4	70.0	69.7	71.2	72.2	72.1	72.1	71.8	73.6
		30～39歳	56.2	56.1	56.8	58.9	57.3	57.9	56.9	58.5	57.9	57.0
		20～29歳	35.3	32.9	37.6	39.0	39.2	36.0	38.9	35.6	35.4	33.7
		20歳未満	12.7	12.0	14.9	15.3	5.4	16.0	12.5	16.5	13.5	6.2

## ウ 違反態様別の検挙状況

違反態様別でみると、使用事犯が4,751人、所持事犯が2,651人、譲渡事犯が419人、譲受事犯が123人、密輸入事犯が333人となっており、使用事犯及び所持事犯で検挙人員の86.2%を占めている。

## エ 覚醒剤事犯の主な特徴

覚醒剤事犯の検挙人員は、薬物事犯の検挙人員の64.2%を占めており、依然として我が国の薬物対策における最重要課題となっている。

その主な特徴としては、暴力団構成員等が検挙人員の4割以上を占めていることや、30歳代及び40歳代の人口10万人当たりの検挙人員がそれぞれ他の年齢層に比べて多いことが挙げられる。

また、再犯者率が他の薬物に比べて高いことから、覚醒剤がとりわけ強い依存性を有しており、一旦乱用が開始されてしまうと継続的な乱用に陥る傾向があることがうかがわれる。

## (2) 大麻事犯

大麻事犯の検挙人員は、平成26年以降増加が続き、令和元年も4,321人と過去最多となった前年を大幅に上回った。

また、大麻事犯の検挙人員のうち、暴力団構成員等は780人と検挙人員の18.1%、外国人は279人と検挙人員の6.5%を占めている。

### ア 年齢層別の検挙状況

人口10万人当たりの検挙人員でみると、近年、50歳以上においては、横ばいで推移している一方、その他の年齢層においては増加傾向にあり、特に若年層による増加が顕著である。

令和元年の人口10万人当たりの検挙人員は、20歳未満が8.7人、20歳代が15.5人、30歳代が7.3人、40歳代が2.7人、50歳以上が0.4人であり、最も多い年齢層は20歳代、次いで20歳未満となっている。

〔大麻事犯年齢別検挙人員の推移〕

区分		年別	H27	H28	H29	H30	R元
大麻事犯	検挙人員		2,101	2,536	3,008	3,578	4,321
	人口10万人当たりの検挙人員		2.1	2.5	3.0	3.5	4.3
	年齢別	50歳以上	104	113	152	157	192
		人口10万人当たりの検挙人員	0.2	0.2	0.3	0.3	0.4
		構成比率 (%)	5.0	4.5	5.1	4.4	4.4
		40～49歳	263	326	347	370	502
		人口10万人当たりの検挙人員	1.4	1.8	1.8	2.0	2.7
		構成比率 (%)	12.5	12.9	11.5	10.3	11.6
		30～39歳	700	899	1,038	1,101	1,068
		人口10万人当たりの検挙人員	4.3	5.8	6.8	7.3	7.3
		構成比率 (%)	33.3	35.4	34.5	30.8	24.7
		20～29歳	890	988	1,174	1,521	1,950
		人口10万人当たりの検挙人員	6.9	7.9	9.4	12.2	15.5
		構成比率 (%)	42.4	39.0	39.0	42.5	45.1
		20歳未満	144	210	297	429	609
		人口10万人当たりの検挙人員	2.0	3.0	4.1	6.0	8.7
	構成比率 (%)	6.9	8.3	9.9	12.0	14.1	
		うち中学生	3	2	2	7	6
		うち高校生	24	32	53	74	109
		大学生	31	40	55	100	132

注1：算出に用いた人口は、各前年の総務省統計資料「10月1日現在人口推計」又は「国勢調査結果」による。

注2：20歳未満の人口10万人当たりの検挙人員は14歳から19歳までの人口を基に、50歳以上の人口10万人当たりの検挙人員は50歳から79歳までの人口を基にそれぞれ算出。



## イ 初犯者率

大麻事犯の初犯者率は77.6%と、近年の横ばい傾向が継続している。

〔大麻事犯の初犯者率の推移〕

区分		年別	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 元
大麻事犯	検挙人員		2,216	1,648	1,603	1,555	1,761	2,101	2,536	3,008	3,578	4,321
	初犯者数		1,803	1,323	1,292	1,208	1,385	1,613	1,962	2,294	2,741	3,355
	初犯者率 (%)		81.4	80.3	80.6	77.7	78.6	76.8	77.4	76.3	76.6	77.6
	年齢別	50歳以上	65.5	62.7	62.0	46.3	71.6	57.7	66.4	60.5	64.3	58.9
		40～49歳	64.2	74.1	71.0	71.1	69.3	66.5	70.6	66.0	64.9	67.1
		30～39歳	82.0	77.8	79.2	78.0	79.4	75.1	74.6	70.9	69.7	71.1
		20～29歳	84.0	83.6	85.0	81.5	81.0	80.9	80.5	82.6	81.2	81.8
	20歳未満	89.6	91.4	93.9	93.2	91.3	91.7	91.0	89.9	92.8	90.3	

## ウ 違反態様別の検挙状況

違反態様別でみると、所持事犯が3,531人、譲渡事犯が249人、譲受事犯が186人、密輸入事犯が80人、栽培事犯が164人となっており、所持事犯が検挙人員の81.7%を占めている。また、栽培事犯の検挙人員は、近年増加傾向にある。

〔大麻栽培事犯の検挙状況の推移〕

区分	年別	H27	H28	H29	H30	R 元
検挙件数		115	144	191	175	172
検挙人員		107	116	138	152	164
暴力団構成員等		25	35	53	25	42

## エ 大麻事犯の主な特徴

大麻事犯の検挙人員は、薬物事犯の検挙人員の32.3%を占めており、その割合は覚醒剤事犯に次いで多くなっている。その主な特徴としては、初犯者率が高いことのほか、特に20歳未満、20歳代の人口10万人当たりの検挙人員がそれぞれ大幅に増加しており、若年層による乱用傾向が増大していることが挙げられる。

## 3 薬物の押収状況

薬物種別でみると、覚醒剤が2,293.1キログラムと大幅に増加し過去最多となるとともに、4年連続で1,000キログラムを超えた。

乾燥大麻は350.2キログラム、大麻樹脂は12.8キログラム、大麻草は8,074本とそれぞれ前年から増加した。

なお、MDMAの押収量が大幅に増加したのは、大量密輸入事件を検挙したこと等によるものである。

〔薬物種別押収量の推移〕

種類	年別	H27	H28	H29	H30	R 元
覚醒剤	(kg)	429.7	1,495.4	1,118.1	1,138.6	2,293.1
	(錠)	741	138	5	261	64
乾燥大麻	(kg)	101.0	133.1	176.3	280.4	350.2
大麻樹脂	(kg)	3.9	0.9	20.7	2.9	12.8
大麻草	(本)	3,355	13,660	17,324	4,456	8,074
	(kg)	87.6	42.3	67.5	23.0	33.2
合成麻薬	(錠)	1,055	5,021	3,181	12,303	73,935
	MDMA (錠)	981	5,019	3,109	12,274	73,874
コカイン	(kg)	18.5	18.3	9.6	42.0	34.9
ヘロイン	(kg)	2.0	0.0	70.3	0.0	0.0
あへん	(kg)	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0

注1：覚醒剤の押収量（kg）は、錠剤型覚醒剤を含まない。

注2：大麻の押収量（kg）は、本数として計上できない形状のものを示す。

注3：合成麻薬の押収量は、覚醒剤と MDMA 等の混合錠剤を含む。

## 4 危険ドラッグ事犯の検挙状況

### (1) 危険ドラッグ事犯の検挙状況

危険ドラッグ<sup>※</sup>事犯の検挙状況は175事件、182人と前年に引き続き大幅に減少した。

適用法令別で見ると、指定薬物に係る医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（以下「医薬品医療機器法」という。）違反、麻薬及び向精神薬取締法違反は、いずれも前年に引き続き減少した。

また、危険ドラッグ事犯のうち、暴力団構成員等による事犯は16事件、16人、外国人による事犯は27事件、27人、少年による事犯は1事件、1人となっている。

※ 危険ドラッグとは、規制薬物（覚醒剤、大麻、麻薬、向精神薬、あへん及びけしがらをいう。以下同じ。）又は指定薬物（医薬品医療機器法第2条第15項に規定する指定薬物をいう。以下同じ。）に化学構造を似せて作られ、これらと同様の薬理作用を有する物品をいい、規制薬物及び指定薬物を含有しない物品であることを標ぼうしながら規制薬物又は指定薬物を含有する物品を含む。

※ 危険ドラッグ事犯の検挙事件数及び人員は、実務統計（警察庁において調査等により集計する数値）による。

〔危険ドラッグに係る適用法令別検挙状況の推移〕

区分	年別		H27		H28		H29		H30		R 元	
	事件数	人員	事件数	人員	事件数	人員	事件数	人員	事件数	人員	事件数	人員
指定薬物に係る医薬品医療機器法違反	895	960	713	758	555	578	336	346	159	165		
乱用者による単純所持・使用等	671	695	495	519	390	404	231	235	119	123		
麻薬及び向精神薬取締法違反	133	148	115	126	56	56	45	48	16	17		
交通関係法令違反	36	36	8	7	1	1	1	1	0	0		
その他法令違反	36	52	28	29	16	16	1	1	0	0		
合計	1,100	1,196	864	920	628	651	383	396	175	182		

注1：同一被疑者で関連する余罪を検挙した場合でも、一つの事件として計上。

注2：複数の罪で検挙されている場合、主たる罪・人員として計上。

注3：指定薬物に係る医薬品医療機器法違反は、危険ドラッグから指定薬物が検出された場合の検挙をいう。

注4：麻薬及び向精神薬取締法違反は、危険ドラッグから麻薬が検出された場合の検挙をいう。

注5：交通関係法令違反は、刑法（危険運転致死傷、自動車運転過失致死傷）、自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律違反（危険運転致死傷、過失運転致死傷）、道路交通法違反をいう。

注6：適用法令（罪名）は、検挙時点を基準として計上（交通関係法令違反の中には、送致時等の罪名変更のものあり）。

注7：乱用者による単純所持・使用等とは、26年4月1日から規制が新設された指定薬物の単純所持、使用、購入、譲受けによる違反態様のうち、販売目的等により検挙された供給者側を除くものをいう。

注8：交通関係法令違反及びその他法令違反には、規制薬物及び指定薬物が検出されなかった事件を含む。

注9：26年から指定薬物以外の医薬品医療機器法違反は、その他法令違反に計上。

### (2) 危険ドラッグ乱用者の検挙状況

危険ドラッグ事犯のうち、危険ドラッグ乱用者<sup>※</sup>の検挙人員は172人（構成比率94.5%）となっている。

※ 危険ドラッグ乱用者とは、危険ドラッグ事犯検挙人員のうち、危険ドラッグを販売するなどにより検挙された供給者側の検挙を除いたものをいう。

## ア 年齢層別の検挙状況

年齢層別の構成比率をみると、20歳代の占める割合は横ばいであり、30歳代の占める割合は減少傾向であり、40歳代及び50歳以上の占める割合が増加傾向となっている。

〔危険ドラッグ乱用者の年齢別検挙人員の推移〕

区分		年別	H27	H28	H29	H30	R元
危険ドラッグ乱用者	検挙人員		966	838	605	368	172
	年齢層別	50歳以上	75	125	105	67	32
		構成比率 (%)	7.8	14.9	17.4	18.2	18.6
	40～49歳		236	293	208	135	65
		構成比率 (%)	24.4	35.0	34.4	36.7	37.8
	30～39歳		330	261	196	109	47
		構成比率 (%)	34.2	31.1	32.4	29.6	27.3
	20～29歳		297	145	94	56	27
		構成比率 (%)	30.7	17.3	15.5	15.2	15.7
20歳未満		28	14	2	1	1	
	構成比率 (%)	2.9	1.7	0.3	0.3	0.6	

## イ 薬物経験別の検挙状況

薬物経験別でみると、薬物犯罪の初犯者が98人（構成比率57.0%）、薬物犯罪の再犯者が74人（同43.0%）となっている。

## ウ 危険ドラッグの入手状況

入手先別でみると、インターネットを利用して危険ドラッグを入手した者の割合が36.6%と最も高い。

〔危険ドラッグ乱用者の年齢別検挙人員の推移〕

区分		年別	H27	H28	H29	H30	R元
危険ドラッグ乱用者	検挙人員		966	833	605	368	172
	入手先別	街頭店舗	265	130	84	33	10
		構成比率 (%)	27.4	15.5	13.9	9.0	5.8
	インターネット		336	353	227	166	63
		構成比率 (%)	34.8	42.1	37.5	45.1	36.6
	友人・知人		110	93	77	45	30
		構成比率 (%)	11.4	11.1	12.7	12.2	17.4
	密売人		109	71	55	32	19
		構成比率 (%)	11.3	8.5	9.1	8.7	11.0
その他・不明		146	191	162	92	50	
	構成比率 (%)	15.1	22.8	26.8	25.0	29.1	

## エ 危険ドラッグの使用が原因と疑われる死者数

危険ドラッグの使用が原因と疑われる死者数は1人と横ばい状態で推移している。

〔危険ドラッグの使用が原因と疑われる死者数の推移〕

区分	年別	H27	H28	H29	H30	R元
死者数		11	6	3	1	1

注1：令和元年12月末現在で警察庁に報告があったものを計上。

注2：発生日ではなく、認知日を基準として計上。

## (3) 危険ドラッグ密輸入事犯の検挙状況

危険ドラッグ密輸入事犯の検挙状況は33事件、35人と減少した。

仕出国・地域別でみると、中国及びオランダが7事件と最も多く、次いでフランスが5事件となっている。

★トピックス

大麻乱用者の実態に関する調査結果

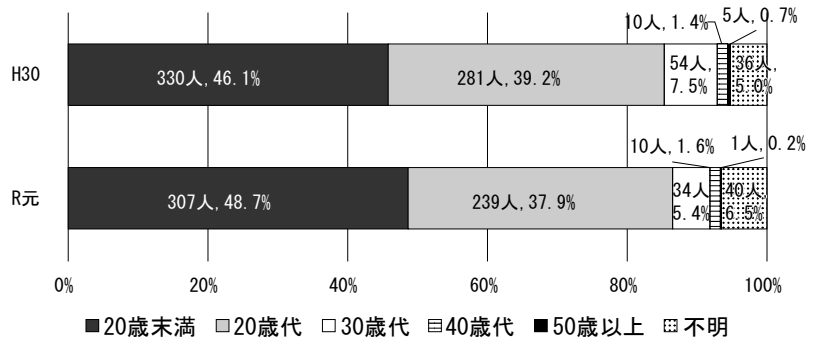
警察庁では、大麻乱用者の実態を把握するため、令和元年10月1日から同年11月30日までの間に大麻取締法違反で検挙された者のうち、違反態様が単純所持のものについて、都道府県警察の捜査過程において明らかとなった事項を調査し、631人分のデータを集約した。これを、平成30年10月1日から同年11月30日までの間に実施した同様の調査（716人分）と比較した結果は次のとおりであった。

○ 大麻を初めて使用した年齢

対象者が初めて大麻を使用した年齢は、「20歳未満」が最多であり、最年少は10歳以下（1人）、最高齢は60歳以上（1人）であった。

初回使用年齢層の構成比の傾向は、30年調査と大きな変化は認められなかった（図表1）。

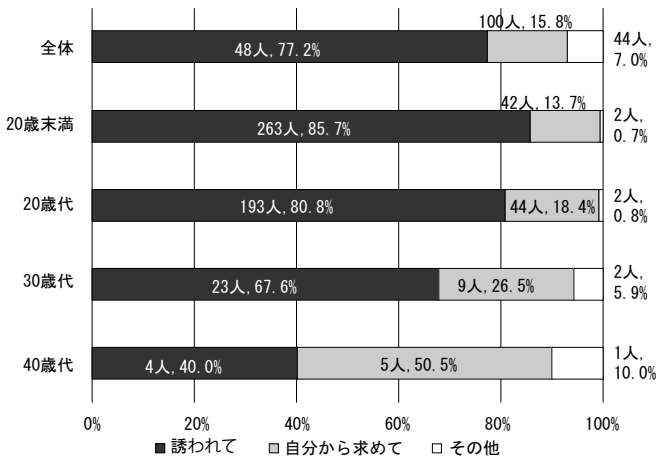
図表1 初回使用年齢構成比【H30とH元の比較】



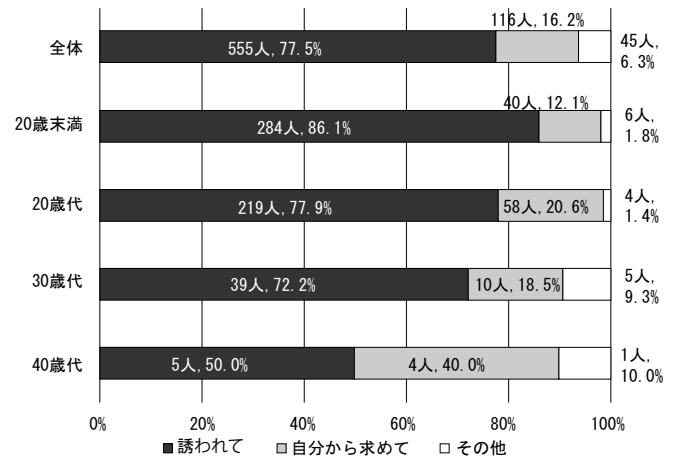
○ 大麻を初めて使用した経緯、動機

大麻を初めて使用した経緯は、「誘われて」が最多であり、初めて使用した年齢が若いほど、誘われて使用する比率は高く、その傾向は30年調査と同様である（図表2、3）。

図表2 大麻を初めて使用した経緯【R元】【初回使用年齢層別】



図表3 大麻を初めて使用した経緯【H30】【初回使用年齢層別】



また、その時の動機については、「好奇心・興味本位」が最多であり、初めて使用した年齢が若いほど「その場の雰囲気」の割合が高く、「誘いを断れなかった」との回答もあった。

30年調査と比較すると、初めて使用した年齢が30歳代の対象者の動機は、「ストレス発散・現実逃避」の割合が低くなり、20歳未満・20歳代の傾向に近くなった（図表4、5）。

図表4：大麻を初めて使用した動機【R元】（初回使用年齢層別・複数回答）

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	全体
好奇心・興味本位	64.0%	54.3%	57.8%	21.4%	58.8%
その場の雰囲気	21.3%	19.5%	13.3%	7.1%	20.0%
クラブ・音楽イベント等の高揚感	4.4%	6.0%	4.4%	14.3%	5.2%
パーティー感覚	1.1%	2.6%	2.2%	0.0%	1.8%
ストレス発散・現実逃避	2.8%	8.1%	8.9%	35.7%	5.9%
多幸感・陶酔効果を求めて	3.7%	7.0%	8.9%	14.3%	5.5%
その他	2.8%	2.6%	4.4%	7.1%	2.8%

図表5：大麻を初めて使用した動機【H30】（初回使用年齢層別・複数回答）

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	全体
好奇心・興味本位	55.7%	50.0%	48.3%	47.4%	52.6%
その場の雰囲気	20.6%	16.6%	14.6%	15.8%	18.1%
クラブ・音楽イベント等の高揚感	6.4%	9.1%	7.9%	5.3%	7.5%
パーティー感覚	5.0%	4.1%	3.4%	5.3%	4.4%
ストレス発散・現実逃避	2.3%	7.5%	16.9%	21.1%	6.3%
多幸感・陶酔効果を求めて	7.9%	9.5%	6.7%	5.3%	8.3%
その他	2.1%	3.2%	2.2%	0.0%	2.8%

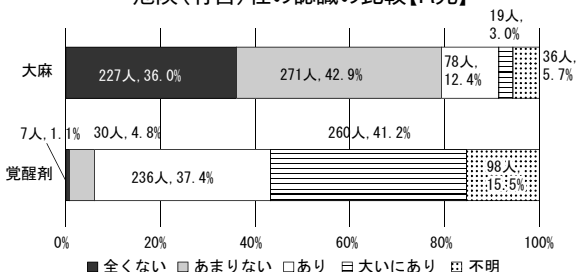


○ 大麻に対する危険（有害）性の認識

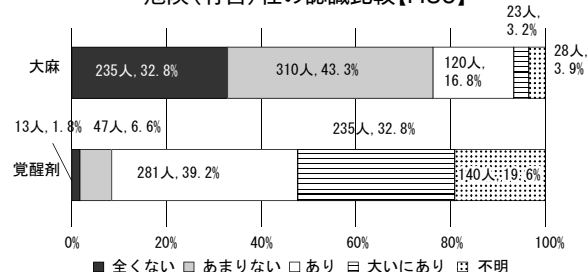
大麻に対する危険（有害）性の認識は「なし（全くない・あまりない。以下同じ）」が78.9%であり、覚醒剤の危険（有害）性と比較して大麻の危険（有害）性の認識は低い。

また、30年調査と比較すると、「なし」の割合が2.8ポイント増加した（図表6、7）。

図表6 大麻及び覚醒剤に対する危険（有害）性の認識の比較【R元】

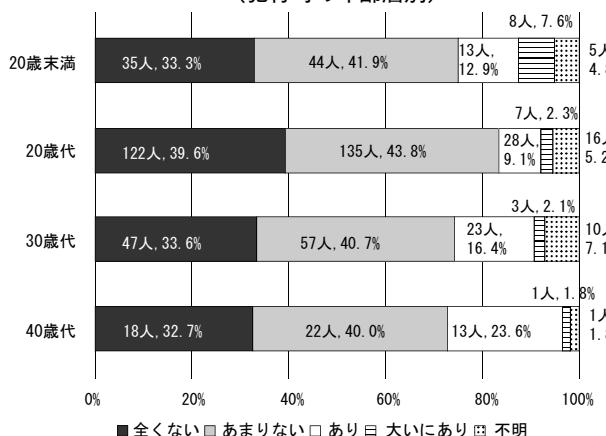


図表7 大麻及び覚醒剤に対する危険（有害）性の認識比較【H30】

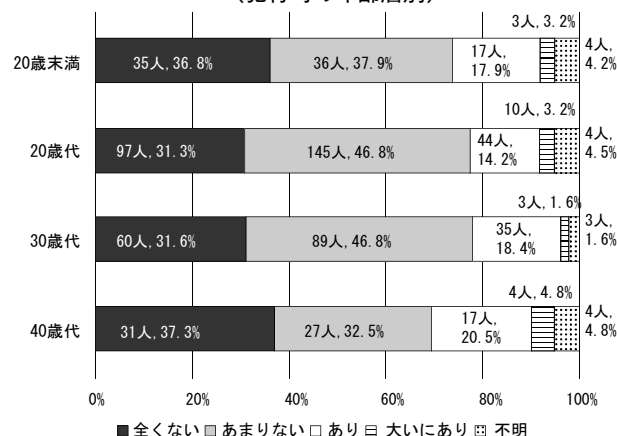


犯行時の年齢層別で大麻に対する最も危険（有害）性の認識が低いのは20歳代であり、30年調査と比較すると、「なし」の割合が5.3ポイント増加した（図表8、9）。

図表8 大麻に対する危険（有害）性の認識【R元】（犯行時の年齢層別）



図表9 大麻に対する危険（有害）性の認識【H30】（犯行時の年齢層別）

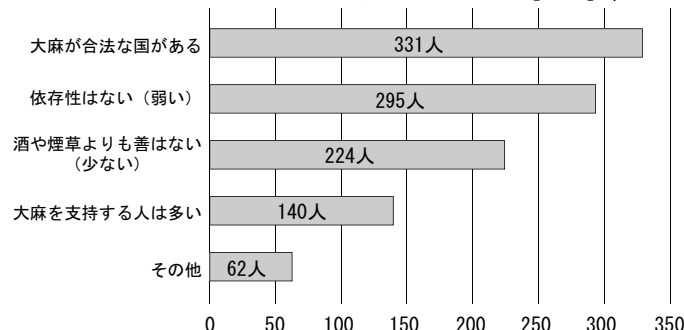


○ 大麻に対する危険（有害）性を軽視する理由

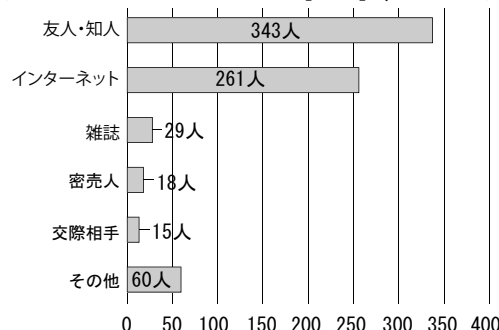
大麻に対する危険（有害）性を軽視する理由は、「大麻が合法的な国がある」が最多である。また、「依存性はない（弱い）」といった誤った認識を持つ者も多い。

また、大麻に対する危険（有害）性を軽視している情報の多くは、「友人・知人」や「インターネット」から入手している状況が確認できた（図表10、11）。

図表10 大麻に対する危険（有害）性の認識理由【R元】（複数回答）



図表11 情報源【R元】（複数回答）



若年層は友人・知人等から誘われるなど、周囲の環境に流されて大麻に手を出す傾向がうかがわれるほか、検挙被疑者については、大麻に対する危険（有害）性の認識が低下していることが判明した。

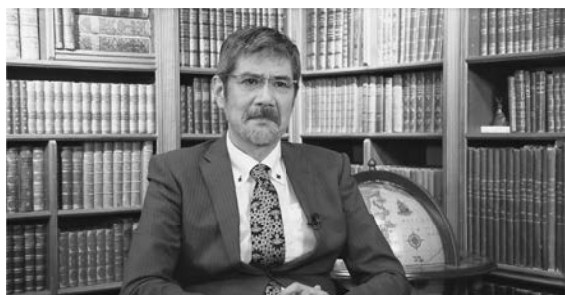
青少年（18歳未満）は大麻が脳に与える影響を受けやすく、学習や記憶、注意力等の認知機能により深刻な影響をもたらし、精神的症状の発現リスクを高めるほか、大麻には依存性があり大麻の使用を制御できなくなるなど、大麻の危険（有害）性を正しく伝え、大麻を勧められても断る勇気を持つように乱用防止の広報啓発活動を一層強化する必要がある。

## 『今、薬物問題を考えよう！～私たちの未来のために～』

(2020年度啓発動画 (DVD No.53) 制作現場から 9月より販売)

新型コロナウイルスの感染拡大は、地球規模で私たちの生活意識に大きな変化をもたらしました。

先頃 UNODC がリリースした『World Drug Report 2020』の中にも、不安定な社会情勢と急激な生活の変化が薬物へのスリップリスクを高めるひとつの要因になっている可能性がある、とのレポートがありました。



今回のインタビューは瀬戸さんにお願ひしました

薬物乱用はなぜ無くならないのか、  
このまま拡大が続くと、私たちの未来はどうなる？  
今、この特別な年にこそ、  
自分自身の問題として考えてみるきっかけに。

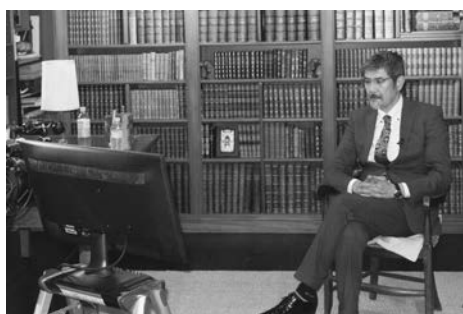
今年の啓発動画は健康と薬物、法律と薬物、社会規範（道徳）と薬物、といった基礎的な視点を踏まえつつ、もう一歩その先について考えてみるきっかけにしてもらうことを意識した企画で制作しました。主な対象者を（小学校で一度学んだ経験のある）中学生以上と想定しています。

普段の生活の中でなかなか実感しにくい薬物問題のリアルな実態を元麻薬取締官から聞くことで「今まで自分が持っていたイメージが実は違っていた、これまで見聞きしていた理解だけでは足りなかった」ことに気づいて、改めて自分や家族や社会にとって何が大切なことかを考えてみる。

大人への入り口年齢であり、情報吸収力の豊かなデジタルネイティブ世代の行動変容に繋げることを企画のテーマに設定しました。



マスク着用、距離を置いて原稿チェック



動画収録中、セットバックは書棚

今年、文科省は中学生のスマホや携帯の学校への持ち込みについて、原則禁止を11年ぶりに見直し、大阪府では生徒たちによるスマホの利点や危険性について話し合いの場が持たれるなど、情報ツールとの上手な付き合い方を考えていく方向へのシフトが進んでいます。

『ネットで見て実は少し興味を持ったが、その情報が偏ったものだったことに気がついた、生活に欠かせないツールであるスマホからの情報取得の仕方や自分の心構えについて考え直すことができた』など社会問題の一つとしての薬物視点を視聴後のゴールイメージとしました。

薬物の問題について、初めて学ぶ小学高学年生には『薬物乱用は、ダメ。ゼッタイ。』がこれまで通り最も重要な予防啓発となります。この領域の動画は既に多くご案内していますので、指導者の皆さまにおかれましては、対象者に応じて適切と思われる動画を選択活用いただき、このテーマについて子供たちとの熱いディスカッションがそれぞれのフェーズで展開されることを願っています。

※瀬戸晴海さん：（一社）日本薬物問題研究所 理事 元厚生労働省関東信越厚生局麻薬取締部部長  
退官後 2020年1月「マトリ」（新潮新書）で日本の薬物犯罪と捜査の実態を克明に記し話題に。  
ネットメディアにも多数出演、薬物問題の本質についての鋭い指摘と警鐘が注目されている。

## 2019 年度国連支援募金の贈呈式が行われました

2020年7月24日、ウィーンのUNODC（国連薬物犯罪事務所）にて、国際機関日本政府代表部引原大使よりワーリー事務局長へ、2019年度実施分の募金の中から約14.5万ドル（1,600万円）の寄付金が贈呈されました。

本寄付金は開発途上国NGOを通じて、青少年の薬物乱用防止教育や指導者養成プロジェクト等に活用されます。毎年、年度末に行われる贈呈式ですが、今般のコロナ禍の影響でスケジュールが大幅に遅れておりました、実施のためご尽力をいただきました厚生労働省、外務省並びに日本政府代表部に感謝申し上げます。

### <引原大使の発言概要>



麻薬・覚せい剤乱用防止センターが2019年に行った国連支援募金キャンペーンで得られた寄付金をお渡しする機会を得られ、大変喜ばしく思っています。

これは1993年に開始され、2020年で27年目となる「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の一環として若者の薬物乱用予防に関する活動を支援するために行われた国連支援募金活動において、青少年をはじめ日本の多くの団体の協力を得て集めた寄付金です。

皆様からの寄付金が、各国のNGOにおいて効果的な薬物乱用防止活動に役立てられるよう、UNODCに適切な使用をお願いしています。

### <ワーリーUNODC事務局長の発言概要>

麻薬・覚せい剤乱用防止センターからの支援は、NGOと国連、そして世界中の若者がそれぞれ協力しながら作り上げられているとてもよいコラボレーションで、自分としても大いに関心を持っています。

日本の若者が他の国の若者を支援するというこの枠組は、考えられる最良の方法であり、27年という長い期間続いているというとても象徴的なものです。

今後、より一層コミットメントが深化し、UNODCと麻薬・覚せい剤乱用防止センターの関係がより良く進展していくことを期待しています。



(写真提供 / 日本政府代表部)

## 『若年者を対象としたより効果的な薬物乱用予防啓発活動の実施等に関する研究』

(令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(医薬品医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業))

前年度までの先行研究『危険ドラッグ等の濫用防止のより効果的な普及啓発に関する研究』を更に発展させ、特に大麻に関して残された諸課題に対応し、日本の若者によるその乱用を予防していくことを目的とする研究班の第1回会合が7月29日に開かれました。

会議では研究分担者がそれぞれの専門領域で今後3か年に実施する研究計画のプレゼンテーションが行われ、最後に井村前理事長から本研究代表を引き継いだ永沼理事より研究班全体の今後の方向性の確認が行われ散会しました。次回会議は10月に開催を予定。



### 出席者

前研究代表者：	井村 伸正	前公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター理事長
研究代表者：	永沼 章	公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター理事 東北大学名誉教授
研究分担者：	河井 孝仁	東海大学文化社会学部広報メディア学科教授
	鈴木 順子	北里大学薬学部名誉教授
	關野 祐子	東京大学大学院薬学系研究科ヒト細胞創薬学寄付講座特任教授
	花尻 瑠理	国立医薬品・食品衛生研究所生薬部室長
	船田 正彦	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所薬物依存研究部室長
	森 友久	星薬科大学薬学部教授
厚生労働省：	竹内 大輔	医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課 課長補佐
	千葉 祐一	同
	河上 千尋	同 主査
事務局：	原田 進	公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター専務理事



### 【注目書籍のご紹介】



どうする麻薬問題「奇跡の国」と言われているが…

山本 章 [著] 薬事日報社

厚生省(現・厚生労働省)、環境庁(現・環境省)に30年間勤務した中でも、「麻薬」と名の付く部署に計4回・約7年半在籍し、「麻薬課長」まで務めた経歴を持つ著者が、これまでの豊富な経験をまとめ、薬物乱用防止対策や「奇跡の国」と呼ばれる日本の軌跡を辿る。

行政組織の変更や統合などで「麻薬課長」のポストが消滅してしまった今だからこそ、自身の行政での経験を後世に伝えるとともに、明日への願いも込めて書き綴った一冊。

# ご 寄 付 団 体 及 び 賛 助 会 員

2020年2月13日から2020年8月14日までに、当センターにご寄付いただいた団体及びご入会いただいた賛助会員は次のとおりです。ご協力ありがとうございました。

## 〔ご寄付団体・個人〕

ツカモトミチコ様 一財)東京都警察懇話会様  
アムズメディカル・コンサルティング様

## 〔法人賛助会員〕

株式会社豊島印刷様 学校法人関西大学様  
丸石製薬株式会社様 UUUM株式会社様

## 〔個人賛助会員〕

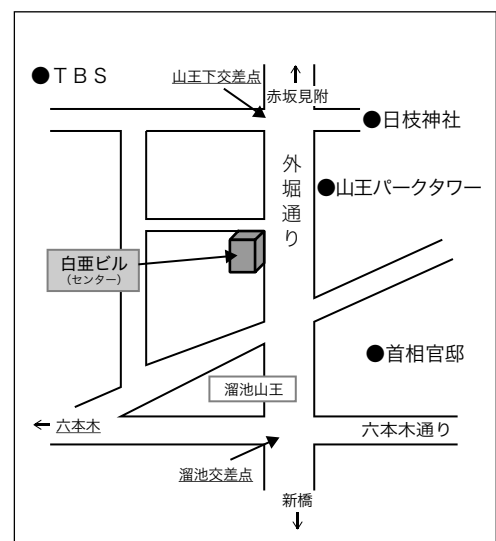
山地 義夫 様 (継続)	児玉 金之助様 (継続)	関根 寿樹 様 (継続)	岡田 譲治 様 (継続)
北川 けい子様 (継続)	小清水 征次様 (継続)	水谷 義広 様 (継続)	高瀬 幹夫 様 (継続)
野々 晴久 様 (継続)	田口 守 様 (継続)	山名 純一 様 (継続)	神垣 鎮 様 (継続)
中本 幾司 様 (継続)	山本 稔 様 (継続)	石原 俊也 様 (継続)	櫻井 秀男 様 (継続)
篠 順三 様 (継続)	宮脇 節 様 (継続)	原 恒道 様 (継続)	丸井 一弘 様 (継続)
古木 光義 様 (継続)	碓野 孝之 様 (継続)	高橋 茂 様 (継続)	中道 守太 様 (継続)
村松 滝夫 様 (継続)	池田 冬美 様 (継続)	山本 章 様 (継続)	荒木 貞雄 様 (継続)
小柴 正照 様 (継続)	今井 啓祐 様 (継続)	大屋 博 様 (継続)	館 親光 様 (継続)
中村 楯夫 様 (継続)	清水 勝利 様 (継続)	古瀬 智之 様 (継続)	齊藤 勲 様 (継続)
吉川 研司 様 (継続)	山田 順子 様 (継続)	中嶋 敏次 様 (継続)	森 和弘 様 (継続)
河野 利光 様 (継続)	石井 征二 様 (継続)	稲荷 恭三 様 (継続)	山崎 功 様 (継続)
岩野 秀夫 様 (継続)	寺田 義和 様 (継続)	永浜 静江 様 (継続)	澤田 宏 様 (継続)
村田 昭夫 様 (継続)	松石 高之 様 (継続)	山田 松三郎様 (継続)	
中村 昌策 様 (継続)	矢口 博行 様 (継続)	村島 吉豊 様 (継続)	



公益財団法人

麻薬・覚せい剤乱用防止センター

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-4-1 (白亜ビル 9F)  
TEL.03 (5544) 8436~7 FAX.03 (5544) 8473  
ホームページアドレス <http://www.dapc.or.jp>





# CREATIVE crew

有限会社クリエイティブクルー

映像に関するワンストップサービスを提供します

**撮影** | 企業用VP/プロモーション映像/セミナー/  
インタビュー取材/施工記録等適切な手法でお応え致します。

**中継・配信** | 国際会議/コンサート/各種コンベンション等  
大規模会場から研修会、分科会など会場でのライブ中継やストリーミングライブ配信、  
リモート会議までフレキシブルに対応いたします。

**映像制作** | 目的に合った作品を企画から立案し効率的な表現手法をご提案いたします。  
演出/撮影/編集/ナレーションに至るまで一貫して作業を行いますので、  
作品完成まで迅速な対応が可能です。

**パワーポイント制作** | デザインスキルを活かし内容を引き立てる事により、  
魅力的な資料を作成いたします。  
さらに、BGMやナレーションを効果的に加え、インパクトあるプロモーションムービーも制作致します。

**トランシーバーレンタル** | 各種イベント/展示会/株主総会等

有限会社クリエイティブクルー

東京都中央区築地2-4-3 東銀座富岡ビル7F

TEL 03-3544-7661

HP <http://creativecrew.co.jp/>

## 介護付有料老人ホームと在宅福祉のご案内です。

### 八王子市暁町



### ●シルバービレッジ八王子

直下型地震にも対応  
安心の免震構造

●シルバービレッジ日野東館

多摩モノレール  
甲州街道駅徒歩1分!!

●シルバービレッジ日野



### 八王子市宮下町

●シルバービレッジ八王子西



八王子に隣接  
救急指定右田病院

日野・日野東館に隣接  
康明会  
ホームケアクリニック

在宅福祉部

- 居宅介護支援事業所  
シルバービレッジいちょうの里
- 訪問介護事業所  
シルバービレッジいちょうの杜
- セカンドライフ応援倶楽部  
シルバービレッジいちょうの実

「ゆったりと安心の毎日」をお届けしています。  
**SV シルバービレッジ**

パンフレットのご請求は

**0120-19-0432**

ホームページ **シルバービレッジ** 検索

株式会社シルバービレッジ 代表取締役会長 石井 征二(八王子陵東LC)

財団広報誌「NEWS LETTER」2020.9 第103号をご覧ください、ありがとうございました。

財団では、薬物問題に取り組むすべての方々のお役にたてるよう本広報誌を始め、ホームページでも日々最新の情報発信に努めております。

予防啓発のための各種教材のご提供や関連書籍の紹介、オリジナル企画や特集、専門機関からのデータや統計資料、行政からのお知らせ、海外情勢などを網羅し、整理・分類の上ご紹介しています。この機会にぜひご覧ください、ご意見等お寄せください。

ダメ。ゼッタイ。

検索 

<http://dapc.or.jp>

